

平成20年度

漁業担い手育成基金事業実績報告書

平成21年10月

財団法人 岩手県漁業担い手育成基金



# 目 次

○ 漁業担い手育成基金の概要	1
1 漁業担い手育成基金の組織	2
2 平成20年度事業総括表	3
3 平成20年度事業実施状況	4
4 事業の実績報告	6
(1) 青少年漁業体験・交流事業	6
(2) 漁業技術・経営研修事業（国内研修）	12
(3) 漁業青壮年・女性活動事業	16
ア 漁業青壮年活動	16
① 試験研究等活動	16
② 漁業青壮年交流活動	30
③ 漁業士活動	31
④ 地区活動実績発表大会	40
イ 漁業女性活動	44
(4) 異業種間交流事業	53
(5) 特認事業（少年海づくり大会事業他）	53
5 地区協議会の運営	58
6 事業実施状況の推移	59
7 漁業担い手育成基金業務方法書	62
8 漁業担い手育成基金業務細則	68



# ○ 漁業担い手育成基金の概要

## 1 目 的

本基金は、漁業就業者、新規就業者等の就業促進に関する事業等を行うことにより、本県の漁業の担い手の育成・確保を図り、もって漁業振興及び漁村の発展に資することを目的としております。

## 2 事業の内容

前記の目的を達成するため、次の助成事業を行います。

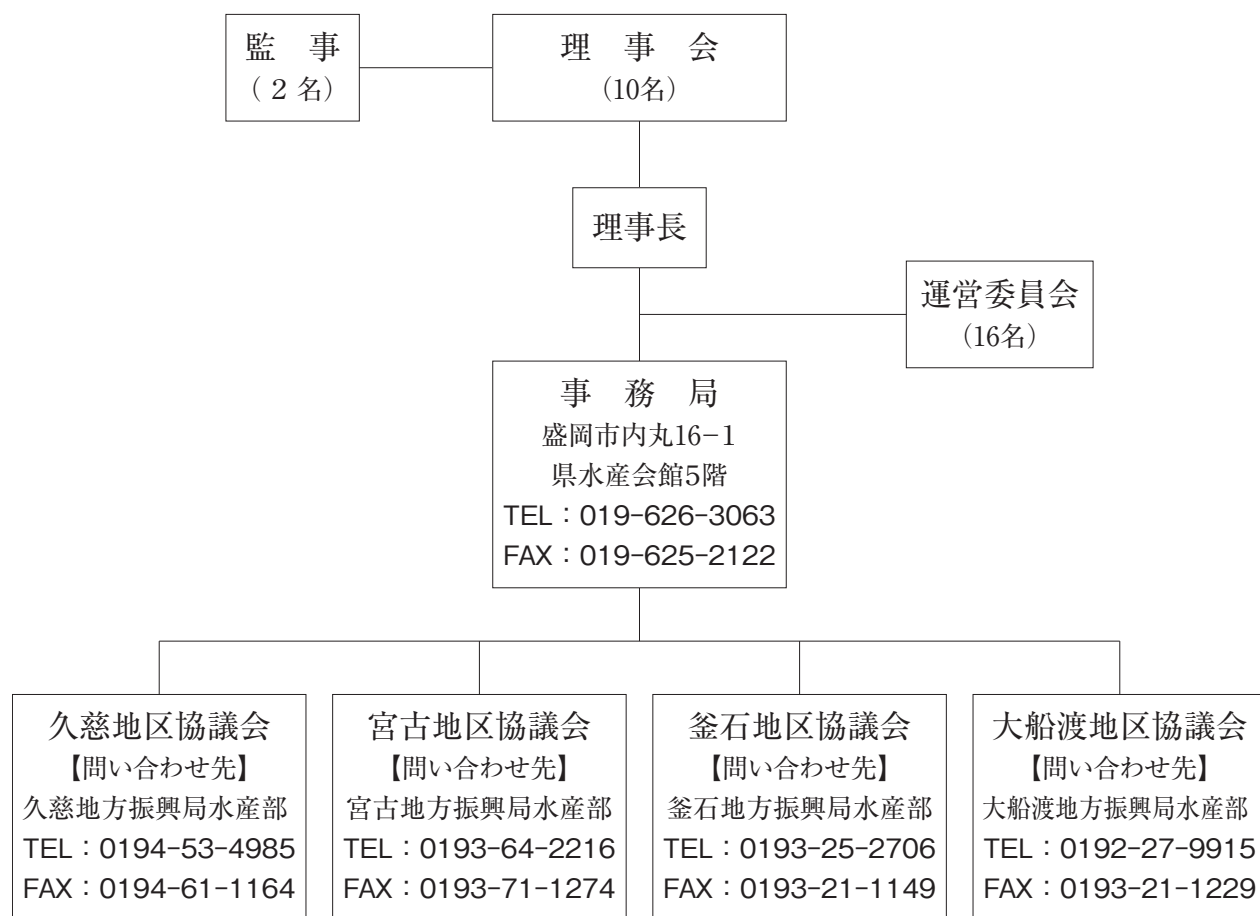
- (1) 青少年漁業体験・交流事業
- (2) 漁業技術・経営研修事業
- (3) 漁業青壮年・女性活動事業
- (4) 異業種交流事業
- (5) 特認事業〈少年海づくり大会等〉

## 3 基金の概要

- (1) 名 称 財団法人 岩手県漁業担い手育成基金
- (2) 設立年月日 平成3年10月1日
- (3) 所 在 地 盛岡市内丸16番1号（岩手県水産会館内）
- (4) 設立根拠法 民法第34条
- (5) 代 表 者 岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長 大井 誠治
- (6) 基本財産 510,000千円
- (7) 出捐状況

区 分	出捐総額(百万円)	比 率(%)	摘 要
県	250	49	
市 町 村	75	15	沿岸12市町村
漁 業 団 体	175	34	27漁協、連合会等
そ の 他	10	2	海づくり大会寄付金
計	510	100	

# 1 (財)岩手県漁業担い手育成基金の組織



## 役員及び運営委員名簿 (H21. 3現在)

### 役員

理事長	大井 誠 治	県漁連会長
副理事長	大森 正 明	県水産振興課長
理事	佐々木 昭 夫	県信漁連会長
理事	原子内 辰 巳	県漁業共済組合長
理事	上村 勝 利	県漁船保険組合長
理事	庄司 尚 男	県漁信基理事長
理事	工藤 大 輔	県議会議員
理事	野田 武 則	釜石市長
理事	沼崎 喜 一	山田町長
理事	横山 英 信	岩手大学教授
監事	向井田 敏 宏	県町村会事務局長
監事	石川 勝 郎	県信漁連常勤監事

### 運営委員

委員長	小国 泰 明	県漁業士会長
副委員長	五日市 周 三	県水産振興課担当課長
委員	外館 則 男	野田村産業振興課長
委員	内田 明	山田町水産振興課主幹
委員	佐藤 悦 男	大船渡市水産課長
委員	吉田 洋 一	広田湾漁協企画指導課長
委員	藤井 充	田老町漁協総務指導部長
委員	佐々木 義三郎	県漁連常務理事
委員	藤島 純 悦	県漁業共済組合専務理事
委員	西條 里 見	JF共水連岩手支店長
委員	畠山 玲 子	指導漁業士
委員	大和田 康 彦	青年漁業士
委員	吉水 裕 信	JF岩手漁青連会長
委員	盛合 敏 子	県漁協女性部連絡協議会長
委員	金野 仁	宮古水産高校長
委員	井ノ口 伸 幸	水産技術センター副所長

## 2 平成20年度漁業担い手育成基金事業総括表

(単位：円)

事業区分	事業主体	予算額	実績額	増減	対比(%)	備考
1 青少年漁業体験・交流事業		1,379,000	1,379,000	0	100.0	
(1) 児童・生徒等の漁業体験学習・交流活動	海づくり少年団等	1,179,000	1,179,000	0	100.0	
(2) 高校クラブ活動等	沿海地区高等学校	200,000	200,000	0	100.0	
2 漁業技術・経営研修事業		1,314,000	1,154,847	△159,153	87.9	
(1) 国内研修	漁協青年部、研究グループ等	1,314,000	1,154,847	△159,153	87.9	
(2) 海外研修	同上	0	0	0	0.0	
3 漁業青壮年・女性活動事業		3,857,000	3,563,604	△293,396	92.4	
(1) 漁業青壮年活動	漁協青年部、研究グループ等	2,559,000	2,265,604	△293,396	88.5	
ア 試験研究等		1,653,000	1,459,604	△193,396	88.3	
イ 漁業青壮年交流活動		150,000	50,000	△100,000	33.3	
ウ 漁業士活動		496,000	496,000	0	100.0	
エ 地区活動実績発表大会等		260,000	260,000	0	100.0	
(2) 漁業女性活動	漁協女性部等	1,298,000	1,298,000	0	100.0	
4 異業種間交流事業	漁協青年部、研究グループ等	200,000	0	△200,000	0.0	
5 その他本基金の目的を達成するために必要な事業		880,000	689,822	△190,178	78.4	
(1) 地区協議会の運営	直営	180,000	93,908	△86,092	52.2	
(2) 特認事業		700,000	595,914	△104,086	85.1	
ア 少年海づくり大会事業等	直営、少年団等	550,000	445,914	△104,086	81.1	
イ 漁業者等資質向上研修		150,000	150,000	0	0.0	
合計		7,630,000	6,787,273	△842,727	89.0	

### 3 平成20年度事業実施状況

#### (1) 青少年漁業体験・交流事業

将来を担う漁業後継者の育成・確保に資するため、県内の海づくり少年団等が行う漁業体験学習などの活動20件に対し助成を行った。また、水産高校のクラブ活動等5件に対し助成を行った。

表1 青少年漁業体験・交流事業実績

事業内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
1 漁業体験学習等	20	143	147	4,810
2 水産高校1日体験入学	3	3	3	359
3 水高クラブ活動	2	(周年)	(周年)	36
計	25	146	150	5,205

#### (2) 漁業技術・経営研修事業

漁業担い手の資質向上を図るため、JF岩手漁青連等が行う国内研修等6件に対し助成を行った。

表2 漁業技術・経営研修事業実績

研修内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
国内研修 玉掛け技能講習 ほか	6	17	17	54

#### (3) 漁業青壮年・女性活動事業

漁業経営の改善や地域の活性化等の促進を図るため、漁村青壮年グループ及び漁業女性グループが行う試験研究や交流活動等25件に対し助成を行った。

表3 漁業青壮年・女性活動事業

事業内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
1 試験研究等活動	10	-	(4~3月)	(実166)
2 漁業青壮年交流活動	2	2	2	103
3 漁業士活動	2	10	10	172
4 地区活動実績発表大会	4	4	4	255
5 漁業女性活動	7	12他	12他	196他
計	25	28	28	892



#### (4) 異業種間交流事業

釜石地区で1件を計画したが、都合により中止された。

表4 異業種間交流事業

交流内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
—	—	—	—	—

#### (5) 特認事業

次代を担う青少年の水産に対する理解と促進を図るため、少年海づくり大会〈交流会〉を各地区で開催し、その助成を行った。

表5 少年海づくり大会等実績

大会名称	開催時期	開催場所	少年団数	参加人数
大船渡地区海づくり少年団交流大会	高田高校、広田校舎及び六ヶ浦漁港	7月26日	3	150
釜石大槌地区少年団交流大会	釜石湾泉浜地区	8月8日	4	23
宮古地区少年海づくり交流大会	県水産技術センター	7月26日	5	92
久慈地区少年海づくり交流大会	県栽培協会種市事業場及び種市高校	8月5日	5	131
計			17	396

また、その他、必要な事業として、各水産部で地区協議会を開催するほか、釜石地区では、新規担い手確保育成にかかる事業1件に対し、助成を行った。




## 4 事業の実績報告

### (1) 青少年漁業体験・交流事業

#### ア 児童・生徒等の漁業体験学習・交流活動

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
広田マリンキッズ隊 	1 サケの稚魚放流	陸前高田市	4/23	55名
	2 田谷浜・箱根山清掃	田谷浜・箱	6/ 4	17名
	3 ホタテ耳づくり体験	広 田	6/ 6	30名
	4 地曳網体験、親子料理	田 谷 浜	7/16	33名
	5 松原海岸清掃、清掃工場・浄化センター見学	陸前高田市	7/18	26名
	6 大船渡地区海づくり少年団交流大会	高田高校	7/26	37名
	7 栽培漁業協会見学	大船渡市	8/22	22名
	8 サケ新巻作り体験	高田高校	11/28	34名
	9 ホタテの選別作業体験	広 田	12/ 5	26名
	10 サケの卵飼育体験	広田小学校	12中～	26名
蛸ノ浦海づくり少年団 	1 アサリの育成調査	蛸ノ浦	4/25	64名
	2 江の丸・船磯海岸清掃	江の丸海岸	6/19	90名
	3 ホタテ耳づくり体験	蛸ノ浦	6/27	19名
	4 ワカメ芯抜き体験	蛸ノ浦小	7/ 4	26名
	5 ウニ採り体験	長崎港	7/16	14名
	6 飛鳥II出航セレモニー	大船渡市	7/23	45名
	7 大船渡地区海づくり少年団交流大会	広田水産高校	7/26	31名
	8 サケ新巻作り（漬け込み作業）	蛸ノ浦漁港	11/14	31名
	9 サケ新巻作り（洗い落とし作業）	蛸ノ浦漁港	11/19	31名
	10 富美岡荘訪問	大船渡市	12/ 2	31名
	11 ホタテ収穫体験	蛸ノ浦漁港	2/24	20名
甫嶺海づくり少年団 	1 サケ稚魚放流	浦 浜 川	4/ 9	7名
	2 甫嶺川の水質調査（1）	甫 嶺 川	6/ 4	22名
	3 EM活性液使用のプール清掃	甫 嶺 小	6/ 6	30名
	4 海フェスタ関連「海の絵作品展」参加	大船渡市	6/30	30名
	5 海フェスタ関連ヒラメ稚魚放流会	浪板海岸	7/23	15名
	6 大船渡地区海づくり少年団交流大会	高田高校	7/26	22名
	7 親子釣り大会	越喜来湾	8/30	30名
	8 廃油石鹸作り	甫 嶺 小	9	15名
	9 甫嶺川の水質調査（2）	甫 嶺 川	12/ 3	22名



実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
長部小学校 (陸前高田市気仙町) 	1 小中学生と高齢者による合同道路清掃 2 養殖業についての学習 (ホタテ、ホヤ、マツモ、ワカメ) 3 ホタテ耳づくり作業体験 4 ホタテ稚貝二次分散作業体験	甫 嶺 甫 嶺 小 気仙町長部 気仙町長部	12/26 6~2 6月 1月	28名 9名 20名 20名
高田高等学校 	管内中学生を対象とした一日体験入学を実施 1 海洋科学コース (水上オートバイ、小型船舶体験乗船、スキューバダイビング体験) 2 食品科学コース (ちくわ製造体験、夢の缶詰づくり体験)	高田高校、 田 谷 浜	7/25	45名
唐丹かもめ少年団 	1 サケ稚魚放流、潮干狩り体験 2 海岸清掃、漂流物調査 3 廃油石けん作り 4 サケ新巻・イクラ作り 5 サケふ化場見学	片 岸 川 片岸海岸 学 校 片 岸 川 片 岸 川	4月 7月 12月 11月 11月	92名 93名 20名 43名 15名
尾崎うみの子少年団 	1 尾崎の海学習 (磯観察、潮干狩り、釣り) 2 清掃活動 (海岸清掃、道路清掃) 3 ワカメ漁業体験 (種まき、塩蔵、芯抜き) 4 サケ新巻づくり 5 海の子版画カレンダー作り	尾崎白浜 尾崎白浜 尾崎白浜 漁協支所 学 校	7、11月 7、10月 12、3月 12月 12月	14名 延36名 延23名 延11名 4名
白浜海づくり少年団 	1 ワカメ体験学習 (芯抜き、胞子観察、販売、収穫と加工) 2 清掃活動 (海岸清掃、道路清掃) 3 親子海釣り大会 4 地域に学ぶ (白浜小と地域の伝統・文化・産業) (地域の動植物、海の生き物) 5 ウニ獲り、網おこし体験 6 海辺の自然体験活動 (釜石夢ワカメ交流推進事業)	学 校 等 箱崎白浜 白浜海岸 白 浜 、 仮 宿 仮 宿 釜 石 湾	4、7、 12、3月 4、7月 6月 6~11月 6~2月 7月 8月	延71名 延54名 27名 8名 8名 27名 8名

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
安渡海洋少年団	1 サケ稚魚放流体験 2 海岸一斉清掃 3 手旗講習会 5 水産加工場見学（越戸商店） 6 サケの遡上、採卵見学（大槌川サケ採卵場） 7 鮭料理教室（大槌町漁協女性部） 8 サケ新巻づくり（民宿六大工）	大槌川 安渡 小学校 大槌町 大槌川 小学校 安渡	4月 6月 9月 11月 11月 12月 12月	31名 ー 16名 13名 17名 17名 延66名
織笠海づくり少年団 	1 漁業体験学習 ホタテ 5月 5年生、8月 6年生 カキ 7、11月 5年生 水産加工 3月 5、6年生 2 水生生物調査 織笠川 6月 3、4年生 山田湾 7月 4、5年生 サケ稚魚飼育 12月～3月 4、5年生 3 環境美化活動 周年 全学年	山田町内 織笠川	H20. 4 ～ H21. 3	74名
赤前海づくり少年団 	1 稚魚放流会 サケ稚魚 4月 2、5年生 ヒラメ 9月 全児童 2 海岸清掃 7月 全児童 3 体験学習 磯の生物観察 6月 全児童 総合学習「赤前の海」 7月 4年生 水生生物調査 9月 4年生 カキ剥き体験 11月 6年生 サケ稚魚飼育 2月～4月 4年生 4 宮古栽培漁業センター見学 7月 4年生 5 「赤前の海新聞製作」 9月 4年生	赤前小 津軽石川 赤前地区 周辺漁港 及び 海岸線	H20. 4 ～ H21. 3	70名
重茂海づくり少年団 	1 環境特別学習会 11月 3～6年生 講師：田中 優 氏 （日本国際ボランティアセンター） 2 新巻づくり体験（12月4日、12月11日） 解体及び塩漬け（全校合同） 洗浄及び解体（学校単位） 3 生物飼育体験 ミニ水族館（学校展示）	重茂小 里漁港 重茂小 鵜磯小 千鷲小 重茂小	H20.11 ～ H21. 3	95名





実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
小本海づくり少年団 	1 育樹祭 6月 6年 2 環境美化 8月 全児童 3 サケ体験学習 水質調査等 9月 5年 採卵体験 11月 1、2年 ふ化場見学 2月 3年 稚魚放流 3月 全児童	早坂高原 小本小 小本川	H20. 5 ~ H21. 3	472名 (延)
島越海づくり少年団 羅賀海づくり少年団 (田野畑村水産物消費拡大協議会) 	1 ウニ採り体験 島越地区 8月 島越小 全校児童 田野畑中 (自由参加) 島越児童館 羅賀地区 7月 羅賀小 全校児童 机地区 7月 机小 全校児童 田野畑中 (自由参加) その他小学生 2 新巻づくり体験 島越地区 11、12月 島越小 全校児童 田野畑中 (自由参加) 島越児童館 羅賀地区 12月 羅賀小 全校児童 机地区 11、12月 机小 全校児童	島越漁港 平井賀港 机漁港 島越漁港 平井賀港 机	H20. 7. 8 H20.11.12	238名 (延)
宮古水産高等学校 	1 一日体験入学 山田町 2校 (35名) 宮古市 10校 (176名) 岩泉町 小本中 (3名) 田野畑村 田野畑中 (6名) 川井村 川井中 (1名) 地区外 3校 (3名) (体験航海、栽培実習、食品製造実習、調理実習)	水産高校 りあす丸	H20. 7.26	224名 (延)
堀内海づくり少年団 	・久慈地域少年海づくり大会 ・サケ採卵受精体験 ・サケ新巻作り体験 (解体、塩漬け) ・サケ新巻作り体験 (塩抜き、乾燥)	洋野町 ふ化場 堀内 堀内	8/ 5 11/19 11/28 12/ 5	16名 15名 15名 15名

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
野田村海づくり少年団 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安家川流域環境保全推進事業に参加 (河川清掃、河川生物観察、ヤマメ放流、交流)</li> <li>・野田ホタテまつりに参加</li> </ul>	岩泉町 (安家) 野田村	8/8 12/13	15名 6名
久喜海づくり少年団 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海浜清掃</li> <li>・久慈地域少年海づくり大会</li> <li>・夏休み漁業体験(定置網見学、船こぎ、ウニ採り、ウニむき体験)</li> <li>・ウニ種苗生産施設(栽培漁業協会)見学 (ウニの生態と栽培漁業の概要を学習)</li> <li>・サケ新巻(解体、塩漬け)とイクラ作り体験</li> <li>・サケ新巻(塩抜き、乾燥)</li> </ul>	久喜浜 洋野町 久喜 洋野町 久喜	6/11 8/5 7/29 8/28 11/12 11/18	57名 8名 28名 4名 8名 8名
長内海づくり少年団 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長内海づくり少年団の結団式</li> <li>・ウニむき体験、清掃活動(ウニの体について学習、ウニむき、試食)</li> <li>・久慈地域少年海づくり大会</li> <li>・サケ新巻作り体験</li> </ul>	長内 二子 洋野町 二子	7/10 7/28 8/5 12/23	12名 15名 10名 12名
平山小学校 (久慈市夏井) 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウニむき体験、ウニ採り体験 (ウニの体について学習、ウニむき、ウニ採り)</li> <li>・サケ新巻作り体験(解体、塩漬け)</li> <li>・サケ新巻作り体験(塩抜き、乾燥)</li> </ul>	夏井 夏井 夏井	7/7 11/25 12/5	44名 44名 44名
中野海づくり少年団 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サケの放流学習(稚魚放流、サケの成長)</li> <li>・久慈地域少年海づくり大会</li> <li>・有家川探検(水質調査、水生生物調査、地形調査)</li> <li>・サケの採卵学習 (採卵体験、受精の見学、ふ化場の見学)</li> </ul>	ふ化場 洋野町 有家川 ふ化場	4/25 8/5 9/10 10/9	58名 33名 25名 25名





実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
宿戸海づくり少年団 	・ウニの森づくり植樹への参加	宿 戸	5/18	93名
	・水産教室	宿 戸	6/19	31名
	干出岩盤上の生物観察、つくり育てる漁業の学習、ウニの体の学習、ウニむき体験	宿 戸	7/ 3	62名
	・浜遊び	洋 野 町	8/ 5	31名
	・久慈地域少年海づくり大会	宿 戸	8/24	171名
	・浜の清掃活動（小学校から浜までの道、浜）			
	・森・川・海フォーラム久慈大会参加	久 慈 市	9/27	31名
・水産生物の室内水槽での飼育・観察	宿 戸	10～ 3	171名	
久慈東高等学校 	・実習船リアス丸の乗船体験 対象：小中学生を含む一般市民 （リアス丸は、午前と午後2回 久慈湾を周航した）	久 慈 湾	7/29 7/30	70名 70名



#### イ 高校クラブ活動等


実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
高田高等学校  	1 海洋環境・海洋資源調査（貝殻（カキ殻）及び不要水産生物の有効利用（肥料の作成）、小友浦「藻場」の環境調査）	高田高校、 広 田 湾	4～2月	15名
	2 水産物の有効利用（サバの頭部等を使用した新製品の開発・研究）			
	3 海洋酵母を活用したパン製造の開発			
宮古水産高等学校  	1 食品家政科食品管理コース 17名 未利用海藻（スジメ、アオサ）の加工品研究 ※ 水産物の有効利用「三陸宮古に“ぞうか”あり！」は、平成20年度全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会にて、「全国水産高等学校長協会奨励賞」を受賞。	宮古水産 高等学校	H20. 4 ～ H21. 1	23名
	2 海洋技術科 6名 「宮古湾環境保全活動」 ～宮古湾のアマモ場生物の観察及び調査～			


(2) 漁業技術・経営研修事業（国内研修）

課 題 名	新規販路開拓に係る市場流通調査		
実 施 主 体	広田湾漁協青壮年部小友支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	10名 (5名)
総 事 業 費	347,645 円	うち基金助成額	210,000 円
事業の目的	「殻付きカキ」の新規市場開拓によって、販売先の多チャンネルを構築して広田湾産「殻付きカキ」の消費拡大を図る。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成20年2月13日～15日 場 所：名古屋市場 荷受会社中部水産㈱ 参加者：6名（生産者5名、漁協職員1名）		
結 果 及 び 考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市場の荷受会社である中部水産㈱のセリ人と懇談</li> <li>・「殻付きカキ」の販売単価はMサイズが60円／個、Lサイズが105円／個で取引可能とのこと。</li> <li>・広田湾産「殻付きカキ」は、他の産地より品質がよいのでぜひ取引したい。</li> <li>・「殻付きカキ」は、2月いっぱい出荷してほしい。</li> <li>・名古屋市場は、荷受3社で、仲買人80社である。築地市場より仲買人の数は少ないが、比較的規模の大きい会社なので取引量は多いとのこと。</li> <li>・エゾイシカゲガイを取り扱ってみたいので検討してほしい。</li> </ul>		
	 		



課 題 名	玉掛け技能講習会		
実 施 主 体	JF岩手漁青連上閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	5 会 員 (24名)
総 事 業 費	486,000 円	うち基金助成額	220,000 円
事業の目的	漁業者の漁業技術の向上及び資格取得により就業範囲の拡大を図る		
期日、場所 参加者等	期 日：平成21年 2 月 3、4 日（A、B組共通）学科講習、学科修了試験、実技 5 日（A組）実技講習、実技試験 6 日（B組）実技講習、実技試験 場 所： 学科講習 （財）岩手労働基準協会（釜石市只越町） 実技講習 新日鉄釜石構内（釜石市） 参加者：JF漁青連上閉伊支部会員 24名		
結 果 及び考察	講習会の開催 ・ JF岩手漁青連上閉伊支部として、標記講習会を受講した。 ・ 2グループに分かれ、学科講習（2日間）、技能講習（1日）を受講し、試験を受験した。 ・ 講義等は、岩手労働局長登録機関である（財）岩手県労働基準協会に依頼した。 ・ 開催概要は次のとおり。 ・ 受講者24名が全日程のカリキュラムを終了し、資格を取得した。 ・ 漁業作業におけるクレーン作業について必須である「玉掛け技能」についての技術向上が 図られ、危険防止と作業効率の向上が期待される。		
	 		

課 題 名	ハタハタの資源管理及びイワガキの天然採苗		
実 施 主 体	JF岩手漁青連下閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	238名 ( 9名)
総 事 業 費	288,637 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	<p>1. ハタハタの資源管理 秋田県のハタハタ資源回復の取組みを研修し、今後の漁場環境保全及び漁業資源管理の参考とする。</p> <p>2. イワガキの天然採苗 イワガキの天然採苗による種苗生産等にかかる取組みを研修することによって、今後の養殖業の参考に資す。</p>		
期日、場所 参加者等	<p>期 日：平成20年9月18日（木）～19日（金）</p> <p>場 所：</p> <p>1. ハタハタの資源管理 秋田県農林水産技術センター水産振興センター 秋田県漁業協同組合北浦総括支所</p> <p>2. イワガキの天然採苗 秋田県漁業協同組合北浦総括支所</p> <p>参加者：JF岩手漁青連下閉伊支部（代表団体：宮古漁協青壮年部） 宮古漁協指導課及び水産部普及員 同行 合計12名</p>		
結 果	<p>1. ハタハタの資源管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハタハタ資源の推移について</li> <li>・資源回復の取組みについて</li> <li>ア 産卵場造成</li> <li>イ 卵塊のふ化放流</li> <li>ウ 人工種苗生産</li> <li>エ 行政的な支援策</li> <li>オ 禁漁にいたるまでの経過</li> </ul> <p>2. イワガキの天然採苗</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーバ調査の体制及び採苗器投入時期の選定</li> <li>・種苗の主な販売先</li> </ul>		
			
	イワガキの種苗生産の取組みについての研修状況		


課 題 名	潜水技術習得研修		
実 施 主 体	船越湾漁業協同組合潜水グループ	構 成 員 数 (うち参加者数)	8名 (5名)
総 事 業 費	284,000 円	うち基金助成額	284,000 円
事業の目的	青年漁業者を中心とした潜水グループを組織し、磯根資源の採捕や移殖等の漁場管理を積極的に行うため、潜水士の資格取得と潜水技術を取得する。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成20年 9 月21日～平成20年 9 月22日 場 所：県立 種市高等学校 参加者：船越湾漁業協同組合潜水グループ部員 5 名 講 師：種市高等学校 講師		
結 果	<p>・潜水技術取得に向けた実技講習</p> <p>ア 初歩的講習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェットスーツ着用による遊泳</li> <li>・浅所潜水</li> </ul> <p>イ 中程度講習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中～深度潜水</li> <li>・ボンベ着用による潜水</li> </ul> <p>※ 参加者から、潜水技術の習得に2日間の研修では不足気味との意見が多く、次年度も事業継続の要望あり。</p>		
			

(3) 漁業青壮年・女性活動事業

ア 漁業青壮年活動



① 試験研究等活動

課 題 名	漁場環境保全活動（漁場調査事業）		
実 施 主 体	広田湾漁協青壮年部小友支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	10名 ( 5名)
総 事 業 費	20,000 円	うち基金助成額	20,000 円
事業の目的	カキ養殖漁業を実施する上で、漁場調査を実施し漁場の環境保全に努める。		
材 料 及 び 方 法	<p>1 漁場観測 観測定点を7地点とし、青壮年部11名にて班編制を行い観測を実施した。</p> <p>2 漁場環境の勉強会の実施</p>		
結 果 及 び 考 察	<p>・青壮年部員が中心となって定点観測を実施し、カキ養殖漁業者に情報提供を行った。特に、8月中旬発生の低酸素状態を迅速に確認し、カキ養殖漁業者に連絡し、被害を最小限にとどめた。</p> <p>・2月20日に水産技術センター職員（小野寺主任専門研究員、高木専門研究員）を講師に漁場環境の勉強会を開催した。</p> <div data-bbox="542 1037 1235 1522" data-label="Image"> </div>		

課 題 名	カキの流通についての講演会		
実 施 主 体	広田湾漁協青壮年部米崎支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	12名 (12名)
総 事 業 費	298,549 円	うち基金助成額	113,000 円
事業の目的	現在「殻付きカキ」、「むき身カキ」の産地間競争が厳しくなっている。その中でブランド化を確立して、優位に販売展開していく必要がある。		
期日、場所 参加者等	講演会の開催 1 日 時 平成20年8月23日 2 場 所 陸前高田市 「キャピタルホテル1000」 3 講 師 築地市場（中央魚類）カキセリ人 中村誠氏、吉田仁氏 4 参加者 58名（生産者47名、漁協関係者6名、市関係者3名、県関係者2名）		
結 果 及 び 考 察	1 「殻付きカキの流通について」 中央魚類 中村誠氏 ・世界のカキの生産は、中国、韓国、日本の順である。 ・オイスターバーに世界各国から生食カキが入荷している。 2 「カキの流通について」 ・築地市場への入荷最大産地は、広島である。しかし、近年高水温のため死滅し、減産である。 ・カキには商品力がある。ある種の料理が可能である。 ・築地市場では広田湾産、赤崎産の順で品質が良い。 ・広田湾は日本でも「きれいな海」なので、今後とも環境保全に努めて欲しい。 ・市場の特徴：取引量の限定原理、不確実性の原理、金融の機能、フードマイレージ ・今後とも情報を共有して互いにカキの販売の活性化を行う必要がある。		
			

課 題 名	漁場環境保全活動（漁場調査事業）		
実 施 主 体	吉浜漁協青年部	構 成 員 数 (うち参加者数)	32名 ( 8名)
総 事 業 費	404,250 円	うち基金助成額	350,000 円
事業の目的	ホタテ養殖漁業を安定的に営むため、漁場調査を実施し、漁場の環境保全に努める。		
材 料 及 び 方 法	<p>1 漁場調査機器購入 クロロフィル・濁度観測機器 (Aquafulor In-Vivo)</p> <p>2 漁場観測 観測定点を吉浜湾内3定点とし、青年部にて観測を行った。</p>		
結 果 及 び 考 察	<p>・ 8月より毎月1回観測を行ったが、クロロフィル量、容存酸素量等ともに正常値を示しており、異常は無なかった。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center; margin-top: 100px;">  </div>		



課 題 名	養殖漁場生産性向上試験－Ⅱ			
実 施 主 体	大槌町養殖連合会	構 成 員 数 (うち参加者数)	47名 (7名)	
総 事 業 費	202,313 円	うち基金助成額	185,000 円	
事業の目的	<p>近年へい死などにより生産性が低下しているホタテ養殖漁場において、カキ養殖試験を実施し、生産性等を比較検討して漁場利用の適正化を促進する。</p> <p>ワカメ施設の複合利用によるコンブの2段養殖試験を行い、単位施設当たりの生産性向上に向けた試験を行う。</p>			
材料及び方法	<p>1 カキ養殖試験</p> <p>漁場：一区第207号 組合前漁場 (100m単列式1台)</p> <p>内容：平成19年度から養殖したカキを5月から殻付きで販売した。</p> <p>販売サイズに達しなかったカキは11月以降に販売した。</p> <p>5月にカキ原盤30連を購入し、垂下ロープに挟み込んで2年次目の養殖を開始した。(助成対象外)</p> <p>平成21年2月に3年次目のカキ原盤20連を購入した。</p> <p>2 コンブ養殖試験</p> <p>漁場：一区第204号 湾北部長根漁場 (200m単・複列式 延2400m)</p> <p>内容：平成19年度に養殖を開始したコンブを6月に収穫し、主にボイル塩蔵コンブとして出荷した。</p> <p>11月28日にコンブ種糸540mを購入し、ワカメとの併用養殖施設 (S200m×18台) に巻込んで養成を開始した。</p>			
結果及び考察	<p>1 カキ養殖試験</p> <p>① 平成19年度養殖開始のカキ販売実績は次のとおりであった。</p> <p>5～6月、一粒カキ小 (東京都内の業者等)；32,704個、1,165千円</p> <p>11～2月、むきカキ (5月にサイズ未達、大槌魚市場)；131.2kg、126千円</p> <p>② 本試験のカキ水揚金額は1,291千円 (税抜き額) で、養殖施設1台 (100m単列式) 当たりのホタテガイ水揚げ実績に比べて4～9倍となった。</p> <p>1年養殖サイクルの確立と経費も含めた収支の比較検討が必要である。</p> <p>2 コンブ養殖試験</p> <p>① 平成20年産 (1年次目) 養殖コンブの生産実績は次のとおりであった。</p> <p>ボイル塩蔵コンブ：25,065kg (15kg×1,671箱) 5,691.3千円 (税抜き)</p> <p>生コンブ : 7,703kg 346.6千円</p> <p>コンブは全量を地元の加工業者に販売し、養殖及び加工方法、増産に向けた課題等について当該業者も含めて意見を交換した。(H20.7.18)</p> <p>② 2年次目の養殖試験は、7名 (2名増) が延べ3,600m (対前年比1.5倍) の施設で開始した。5～6月に刈取り、ボイル塩蔵加工する予定である。</p>			

課 題 名	ホヤ採苗試験		
実 施 主 体	白浜養殖組合 ホヤ部会	構 成 員 数 (うち参加者数)	7名 (7名)
総 事 業 費	74,000 円	うち基金助成額	60,000 円
事業の目的	需要の増大等により供給が不安定となっているホヤ種苗について、地場採苗技術の確立を試みる。		
材料及び方法	<p>(人工採苗試験)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12月30、31日、大槌湾産の親ホヤを産卵用の陸上水槽に收容し、海水をかけ流して、1月3日までは恒光下で産卵を抑制した。</li> <li>1月4～6日に放精、放卵させ、受精卵を回収して計数した。</li> <li>カキ殻の採苗器を收容した水槽(4箇所)に、一定量の受精卵を分散して收容した。採苗水槽は止水とし、ヒーターで約10℃に調温して1月9日まで幼生の付着(採苗)を図った。なお、ヒーターを準備できなかった採苗水槽(3箇所)は、原海水によるウォーターバス方式で保温を図った。</li> <li>採苗後に給水し、1月下旬に採苗器を養殖施設に垂下した。</li> </ol>		
結果及び考察	<ol style="list-style-type: none"> <li>親ホヤは、合計226個を使用した。 恒光処理の効果があり、1月3日に消灯して自然日長に戻したところ、4日の昼頃から放精・放卵が始まった。</li> <li>回収した受精卵はバケツに收容し、原海水のウォーターバスで1日保温した後に、計数して4箇所(7人分)の採苗水槽へ移した。 6日までの3日間に合計1,450万個の受精卵を確保して採苗に供した。</li> <li>採苗水槽は、カキ殻採苗器(100枚/連)95連を入れて止水とした。1箇所は投込み式ヒーターで10℃程度の水温に維持できたが、原海水で保温した3水槽では水温が8℃台と低かった。</li> <li>ヒーターで調温した採苗水槽では、8日に多数のオタマジクシ型幼生の浮遊が観察され、10日には海水を給水して採苗を終了した。 なお、原海水で保温した採苗水槽では、数日遅れて給水を開始した。</li> <li>1月20日に、採苗に供したカキ殻への付着状況を観察したところ、ヒーターを使用したものでは1枚に50個程度を確認できたが、温度が低かった方では付着数が少なかった。</li> <li>1月下旬には、採苗に参加した7名が各自の養殖施設に採苗器を垂下した。</li> </ol> <p>(考察)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>採苗水槽の調温と受精卵の計数が可能であれば、バケツに仮收容する必要は無く、直ちに受精卵を採苗水槽へ收容して良いと考えられた。</li> <li>沖出し後の付着状況を確認して、最終的な採苗結果を把握する必要があるが、付着(採苗)率を高めるためには、卵から浮遊幼生が付着するまでの水温管理を、ヒーターを使用して10℃程度に維持することが必要であると考えられた。</li> </ol>		



白浜養殖組合のホヤ人工採苗



←1 採卵用水槽  
親ホヤを収容し、  
排水を濾し器で受  
ける。



←2 バケツに仮収容した受精卵  
計数して各採苗水槽に分散収容した。

結果及び  
考 察

↓3 カキ殻採苗器を収容した採苗水槽



課 題 名	釜石湾静穏域漁場適正試験		
実 施 主 体	釜石湾漁業協同組合青年部	構 成 員 数 (うち参加者数)	26名 (20名)
総 事 業 費	110,610 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	釜石湾静穏域養殖漁場においてホタテガイ・カキ・ホヤの垂下養殖試験を実施し、湾内漁場特性の把握、養殖方法改善など、生産性向上のための知見を得る。		
材 料 及 び 方 法	<p>1 釜石湾内の泉浜、垂水、白浜前においてホヤ、カキ、ホタテガイ養殖の比較試験を実施した。泉浜では、いかだ施設でのカキ養殖についても検討した。</p> <p>2 上記の3地点で、毎月1回、水温、塩分、溶存酸素を調査した。</p> <p>3 ホヤ養殖試験 H19年度に人工採苗したホヤ種苗を使用して養殖試験を開始した。 3.5mの垂下綱にカキ殻は6個を挟み込み、シュロ糸は4段に巻込んだ。 垂下綱3本を連結したものを1連として筏施設に垂下した。(H20.9.28) 親ホヤ200個から採卵し、止水方式の幼生管理により人工採苗を行った。</p> <p>4 カキ養殖試験 H19年度に筏施設へ垂下したカキ原盤の、フジツボ等付着物除去対策を試みた。新たなカキ原盤を垂下綱に挟み込み、養殖筏に垂下した。</p> <p>5 ホタテ養殖試験 耳吊り(75段、130枚)したホタテガイを、上記の3地点に2連づつ垂下して成育状況を観察した。</p>		
結 果 及 び 考 察	<p>1 ホヤ養殖試験及び人工採苗</p> <p>① H19年度に採苗したホヤは順調に成育していた。養殖した稚ホヤ付着密度は、カキ殻で113~254個/枚、シュロ糸では平均117.9個/段であった。 その後の観察では、カキ殻では付着密度が濃すぎるため調整(間引き)が必要と思われたが、シュロ糸では適正な密度で順調に成育していた。 シュロ糸に採苗する方が、養殖密度を調整しやすいと考えられた。</p> <p>② H20年度の人工採苗では、照度調整により1月19日に約1200万個を採卵した。これを500ℓの採苗水槽に収容し、止水で7日間10℃に調温して約2400mのシュロ糸に採苗した。流水管理の後、養殖漁場に垂下した。</p> <p>2 カキ養殖試験</p> <p>① 泉浜養殖筏のカキ垂下連に大量のフジツボが付着して、カキの成長が阻害される状況となったため、約半数の垂下連について竹ベラなどによるフジツボの除去を行った。</p> <p>② 干出、温湯、飽和食塩水、真水処理によるフジツボ除去試験を行ったところ、4時間以上の干出と10秒程度の温湯(60℃)処理で効果があった。</p> <p>③ 手作業によるフジツボ除去群のうち上層部のカキは分散してカゴ養殖に移行し、中、下層のカキはそのまま養殖を継続したが、未除去群はムラサキイガイが大量に付着したため、養殖を断念して撤去した。</p> <p>④ 宮城県産のカキ原盤を購入し、10mの垂下綱に15枚を挟み込んで25連とした。フジツボ</p>		

の付着を防止するため、丸く束ねて泉浜養殖筏の上層に垂下した。(3月7日)

### 3 ホタテ養殖試験

試験を開始した6月から8月までは、3地点(泉浜、垂水、白浜前)での成長差はみられなかった。11月以降に、泉浜のホタテ垂下連にムラサキイガイの付着が顕著となり、3月には殻長の測定ができなくなってしまった。



H19年度に採苗したホヤ種苗の養殖状況



H20年度のホヤ人工採苗作業



←カキに付着したフジツボの除去試験



H20年度カキ原盤の垂下作業



ホタテガイ養殖試験(湾内の3箇所と比較)



ムラサキイガイに被覆された泉浜漁場のホタテ

結果及び  
考察

課 題 名	ホヤ採苗試験		
実 施 主 体	唐丹町漁協ホヤ養殖組合	構 成 員 数 (うち参加者数)	8名 (8名)
総 事 業 費	114,660 円	うち基金助成額	60,000 円
事業の目的	需要の増大等により供給が不安定となっているホヤ種苗について、地場採苗技術の確立を試みる。		
材料及び方法	<p>(人工採苗試験)</p> <p>1 採苗器は、9mmパームロープを5mに切断して二つ折りにしたもの3本(15m)撚り合せて1連とし、合計120連(延1800m)を作成した。</p> <p>2 12月21日に唐丹湾産の親ホヤを産卵用の陸上水槽に収容し、海水をかけ流して、12月23日までは恒光下で産卵を抑制した。</p> <p>3 12月24～26日に放精・放卵させ、受精卵を回収して計数した。</p> <p>4 受精卵は、9mmパームロープ採苗器(60連)を収容した水槽に収容した。 止水にして投込み式ヒーターで約10℃に調温し、12月30日まで幼生の付着(採苗)を図った後に給水を開始した。 なお、2回目の採苗は、同じ親ホヤにより1月5～7日に採卵して、10日まで1回目と同様に採苗した。</p> <p>5 1月中旬に全ての採苗器を養殖施設に垂下した。</p>		
結果及び考察	<p>1 親ホヤは、合計264個を使用した。 恒光処理の効果があり、採卵予定日には確実に放精・放卵した。なお、1回目(12月下旬)は午前中、2回目(1月上旬)は午後から反応した。</p> <p>2 稚ホヤまでの付着率を5%、採苗器1cm当たりの付着密度を2個と仮定し、目標最卵数を720万個としたが、1回目に555万個、2回目に794万個、合計で1,349万個を採卵して採苗に供することができた。 なお、採苗水槽を十分に調温できない場合の対応策として、回収した受精卵をバケツに収容し、原海水の水槽で1晩保温してから、翌日に卵の発生状況を確認したうえで採苗水層へ移した。</p> <p>3 投込み式ヒーターを1式しか準備できなかったため、2回に分けて1水槽で採苗したので、採苗中の水温は10℃程度に維持できた。</p> <p>4 採苗直後の付着状況を観察したところ、数個の付着は確認できたが、付着率を推定することまではできなかった。</p> <p>5 採苗器は、1回目、2回目ともに1月16日に沖出しし、養殖施設(水深23m)に垂下した。 (考察)</p> <p>1 採苗水槽の調温が可能であれば、受精卵をバケツに仮収容する必要は無く、計数後直ちに採苗水槽へ移し、そこでふ化させて良いと考えられた。</p> <p>2 沖出し後の付着状況を確認してから最終的な採苗結果を把握する必要があるが、付着(採苗)率を高めるためには、卵から浮遊幼生が付着するまでの水温管理を、ヒーターを使用して10℃程度に維持することが必要であると考えられた。</p>		



3 パームロープの採苗器は容積が大きくなるため、採苗水槽内での水の循環が悪くなるこ  
とが懸念されたので、効率的な採苗器を検討する必要がある。

唐丹町漁協ホヤ養殖組合のホヤ採苗試験



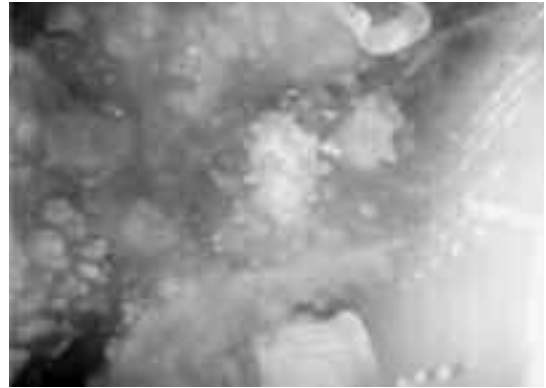
パームロープ (9mm) の採苗器



採卵用水槽と卵回収用の濾し器 (手前)



収容した親ホヤ



放精・放卵中の親ホヤ

結果及び  
考 察



受精卵の回収作業



採苗用水槽

課 題 名	ホヤ人工採苗養殖試験																													
実 施 主 体	重茂漁業協同組合 青年部	構 成 員 数 (うち参加者数)	91名 (91名)																											
総 事 業 費	133,237 円	うち基金助成額	133,237 円																											
事業の目的	韓国での需要増により価格が上昇しているホヤの養殖技術を習得することで、ホヤが第3の養殖対象種となり得るか検討する。																													
材料及び方法	<p>試験期間：平成20年4月～平成21年3月  試験場所：宮古市重茂</p> <p>材 料 (1) 親ホヤ 天然ホヤ50kg (重茂地先から採取)  (2) 採苗器 シュロ縄 (φ9mm、φ15mm) 延444m  ポリエチレン縄 (φ12mm) 延210m</p> <p>方 法 (1) 情報収集活動 ユーザーのニーズ調査  (2) 人工採苗及び中間育成 生産工程の改善及び生産規模拡大</p>																													
結果及び考察	<p>結 果</p> <p>(1) 情報収集活動  平成20年9月に、山田湾漁協及び越喜来漁協のホヤ養殖業者を訪問し、下記の助言を得た。</p> <p>① ロープをコレクターとする場合、直径9mm以上のシュロ縄かパーム、カキ養殖用垂下縄を用いると良い。</p> <p>② ホヤ種苗は、ロープとロープの縫り目に付着し易いので、3本編みにすること。</p> <p>③ ロープ製のコレクターの場合、付着密度は1cmあたり1個が理想。</p> <p>(2) 人工採苗及び中間育成  第2期の人工採苗は、平成20年12月24日と平成21年2月20日に計2回実施し、12月採卵が423万粒、2月採卵が172万粒、合計595万粒を採卵した。</p> <p>平成20年度 ホヤ人工採苗結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>採卵月日</th> <th>平成20年12月24日</th> <th>平成21年2月20日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コレクター</td> <td>シュロ 単 88本(延176m)</td> <td>シュロ 単 29本 (58m)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>シュロ 三編み 20本(延210m)</td> <td>ポリエチレン 三編み 20本 (210m)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計 108本 386m</td> <td>計 49本 268m</td> </tr> <tr> <td>誘発条件</td> <td>明期：5日 暗期：13時間</td> <td>明期：11日 暗期：13時間</td> </tr> <tr> <td>採卵数(万粒)</td> <td>423</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>収容密度(n/ml)</td> <td>3.3</td> <td>2.1</td> </tr> <tr> <td>飼育条件1(浮遊期)</td> <td>流水(3回転/日) 加温10℃、11日間</td> <td>止水 加温11℃、4日間</td> </tr> <tr> <td>飼育条件2(付着後)</td> <td>流水、加温10℃、35日間</td> <td>流水、加温10℃、39日間</td> </tr> </tbody> </table>			採卵月日	平成20年12月24日	平成21年2月20日	コレクター	シュロ 単 88本(延176m)	シュロ 単 29本 (58m)		シュロ 三編み 20本(延210m)	ポリエチレン 三編み 20本 (210m)		計 108本 386m	計 49本 268m	誘発条件	明期：5日 暗期：13時間	明期：11日 暗期：13時間	採卵数(万粒)	423	172	収容密度(n/ml)	3.3	2.1	飼育条件1(浮遊期)	流水(3回転/日) 加温10℃、11日間	止水 加温11℃、4日間	飼育条件2(付着後)	流水、加温10℃、35日間	流水、加温10℃、39日間
採卵月日	平成20年12月24日	平成21年2月20日																												
コレクター	シュロ 単 88本(延176m)	シュロ 単 29本 (58m)																												
	シュロ 三編み 20本(延210m)	ポリエチレン 三編み 20本 (210m)																												
	計 108本 386m	計 49本 268m																												
誘発条件	明期：5日 暗期：13時間	明期：11日 暗期：13時間																												
採卵数(万粒)	423	172																												
収容密度(n/ml)	3.3	2.1																												
飼育条件1(浮遊期)	流水(3回転/日) 加温10℃、11日間	止水 加温11℃、4日間																												
飼育条件2(付着後)	流水、加温10℃、35日間	流水、加温10℃、39日間																												

課 題 名	ワカメ迅速塩漬装置実証化試験																																															
実施主体	岩手県漁業士会宮古支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	24名 ( 1名)																																													
総事業費	308,367 円	うち基金助成額	308,367 円																																													
事業の目的	水産技術センター等が開発したワカメ・コンブ塩漬装置について、実際の生産現場で使用し事業レベルでの導入の可能性について実証試験を行う。																																															
期日、場所 参加者等	<p>試験期間：平成20年3月～5月          試験場所：宮古市重茂 及び 釜石市（水産技術センター）</p> <p>参加者 (1) 迅速塩漬装置試作品 φ1.6mタイプ及びφ2.0mタイプ          (2) 養殖生ワカメ 1.3 t (佐々木指導漁業士が養殖したもの)          養殖生コンブ 0.5 t (佐々木指導漁業士が養殖したもの)          (3) 食塩濃度屈折計 1台          (4) ワカメ収容袋 120枚          洗濯ネット：50枚、コウナゴ袋：20枚、特大コウナゴ袋：50枚</p>																																															
結果及び 考 察	<p>結 果</p> <p>(1) φ1.6mタイプによるワカメ塩漬試験</p> <p>表 300kgのワカメによる塩漬試験結果</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th colspan="3">条 件</th> <th rowspan="2">水分活性</th> <th rowspan="2">塩分濃度 %</th> </tr> <tr> <th>時間 min</th> <th>回転数 rpm</th> <th>真水100ℓ 添加塩量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60</td> <td>83</td> <td>45</td> <td>0.747</td> <td>20.6</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td rowspan="2">60</td> <td rowspan="2">45</td> <td>0.750</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>90</td> <td>0.747</td> <td>20.1</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td rowspan="3">117</td> <td rowspan="3">36</td> <td>0.791</td> <td>16.6</td> </tr> <tr> <td>50</td> <td>0.788</td> <td>17.3</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>0.781</td> <td>17.7</td> </tr> <tr> <td>40</td> <td rowspan="2">150</td> <td rowspan="2">40</td> <td>0.785</td> <td>17.6</td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>0.784</td> <td>17.4</td> </tr> <tr> <td colspan="3">佐々木漁業士通常塩蔵品</td> <td>0.751</td> <td>19.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>水分活性：0.76以下          塩分濃度：18%以上</p> <p>・ 試験は平成20年3月11日から12日及び4月18日、23日に実施した。</p> <p>・ 試作機による塩漬工程における水分活性及び塩分濃度を表1に示す。          その結果、塩分45%であれば60分で塩漬可能であることが判明した。</p> <p>・ φ1.6mタイプによる問題は次の通りであり、粉碎塩の使用量も定法による使用量を上回った。</p> <p>ア 袋が破れやすくワカメがこぼれる。          イ 改良型収容袋の単価が高い。          ウ こぼれたワカメや袋の紐が軸に絡まる。          エ 攪拌用プロペラのトルクが弱い。          オ 収容量が少ない（最大300kg程度）。</p> <p>(2) φ2.0mタイプによるコンブ塩漬試験</p> <p>・ 試験は平成20年5月27日に、水産技術センターで実施した。</p> <p>・ φ1.6mタイプによる試験の結果を受けて、1回あたりの処理量を増やすためφ2.0m</p>			条 件			水分活性	塩分濃度 %	時間 min	回転数 rpm	真水100ℓ 添加塩量	60	83	45	0.747	20.6	60	60	45	0.750	20.4	90	0.747	20.1	40	117	36	0.791	16.6	50	0.788	17.3	60	0.781	17.7	40	150	40	0.785	17.6	60	0.784	17.4	佐々木漁業士通常塩蔵品			0.751	19.0
条 件			水分活性	塩分濃度 %																																												
時間 min	回転数 rpm	真水100ℓ 添加塩量																																														
60	83	45	0.747	20.6																																												
60	60	45	0.750	20.4																																												
90			0.747	20.1																																												
40	117	36	0.791	16.6																																												
50			0.788	17.3																																												
60			0.781	17.7																																												
40	150	40	0.785	17.6																																												
60			0.784	17.4																																												
佐々木漁業士通常塩蔵品			0.751	19.0																																												

結果及び  
考 察

タイプの試作機を用いて、φ1.6mタイプと比較して以下の構造を改良した。

ア プロペラを底から低く設置。

イ モーターギアを低回転高トルク型に変更。

ウ 収容量の増大（最大収容量：60kg）

- ・ φ2.0mタイプによるボイル済みコンブ500kgの塩漬工程における水分活性を表2に示す。

その結果、塩分46%であれば45分で塩漬可能であることが判明した。

- ・ 市販玉ねぎ袋を2重にして収容袋として使用したが、袋の破れやコンブの漏れ等は発生せず、処理工程中に機器停止等の動作不良は発生しなかった。

表2 改良装置によるコンブ塩蔵処理結果

処理時間	水分活性
30	0.761
45	0.751
60	0.750
90	0.750
通常品	0.757

課 題

2タイプの試作機による塩漬工程を試験した結果、機器の実用化及び普及を推進するためには次の項目が課題であることが判明した。

ア 塩漬及び脱水工程終了後の塩蔵製品表面に塩が過剰に残る場合があり、最適な粉砕塩投入量が未解明。

イ 作業性及び耐久性が良い収容袋の選定。


ウ 機器使用に関するマニュアルが未作成。



課 題 名	ホヤ養殖採苗試験験		
実施主体	野田漁友会	構 成 員 数 (うち参加者数)	8名 (8名)
総事業費	145,343 円	うち基金助成額	130,000 円
事業の目的	新規養殖対象魚種として、ホヤの人工採苗及び養殖の可能性を実証した。		
材料及び 方 法	1 試験実施期間 平成20年11月25日から平成20年3月末(継続2年目) 2 試験実施場所 野田村漁協ホタテガイ蓄養施設、養殖漁場 3 採 苗 基 質 直径7mm・9mmパームコード 4 使用器材 産卵用水槽、採苗用水槽(500ℓ円形水槽)、ウォーターバス用水槽、エアポンプ、遮光幕、受精卵回収用ネット、関連用具 5 産 卵 誘 発 光調節、水温調節(併用)		
結 果 及 び 考 察	1 親ホヤの収容(平成20年11月25日～28日) <ul style="list-style-type: none"> <li>親マボヤ20個を恒明下の条件で飼育した。</li> <li>親ホヤの水槽上部に蛍光灯を設置し昼夜照射した。</li> </ul> 2 第1回採卵(平成20年11月29日～30日) <ul style="list-style-type: none"> <li>水温(12.7℃度)、13:00～17:00放精・放卵を確認した。</li> <li>マボヤ卵295万粒を回収し、パームロープ(径9mm、40m×13枠=520m)に採苗(流水式)した。</li> </ul> 3 親ホヤの飼育(平成20年12月1日～6日) <ul style="list-style-type: none"> <li>前回の採卵に使用した親マボヤ20個を恒明下の条件で飼育した。</li> </ul> 4 第1回検鏡(平成20年12月9日) <ul style="list-style-type: none"> <li>10cmあたり、平均15個の付着稚仔が確認した。</li> </ul> 5 第1回採苗器の沖だし(平成20年12月16日) <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回採卵の採苗器13枠を沖出しした。</li> </ul> 6 第2回採卵(平成20年12月17日～18日) <ul style="list-style-type: none"> <li>水温(12.0℃度)、13:00～17:00放精・放卵を確認した。</li> <li>マボヤ卵140万粒を回収し、パームロープ(径5mm、100m×3枠=300m)に採苗(流水式)した。</li> </ul> 7 第2回検鏡(平成20年12月26日) <ul style="list-style-type: none"> <li>10cmあたり、平均23個の付着稚仔が確認した。</li> </ul> 8 第2回採苗器の沖だし(平成20年12月31日) <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回採卵の採苗器3枠を沖出しした。</li> </ul> 9 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度採苗分の種糸を一部出荷  田老地区:30m 4,500円(150円/m)、普代地区:50m 7,500円(150円/m)</li> <li>平成20年度 種糸 820m、平成19年度 種糸 320m 対前年比 2.6倍</li> </ul>		
課 題	今後、本養成、製品販売後に経費を含めた経済性を検討していく必要がある。		



② 漁業青壮年交流活動

課 題 名	JF岩手漁青連気仙支部研修会		
実 施 主 体	JF岩手漁青連気仙支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	56名 (23名)
総 事 業 費	74,340 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	会員の資質向上を図る。		
期日、場所 参加者等	<p>1 日 時：平成21年1月16日（金）15：00～17：15</p> <p>2 場 所：大船渡市「大船渡市プラザホテル」</p> <p>3 参加者：23名（漁青連気仙支部会員56名、その他16名）</p>		
結 果	<p>1 講 演 「20年春以降のホタテガイの大量へい死について」 (水産技術センター 主任専門研究員 野呂忠勝 氏)</p> <p>2 講 演 「20年の貝毒の特徴とホタテガイ以外の貝類等の毒化について」 (水産技術センター 上席専門研究員 菊池達也氏)</p> <p>3 話題提供 「ワカメの流通状況について」 (理研食品株式会社 芳賀順)</p> <p>4 活動報告 「トリガイ養殖の視察報告」と題し、広田湾漁協青壮年部米崎支部の吉田浩正氏が報告した。</p>		
			


③ 漁業士活動

課 題 名	宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部との交流会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会大船渡支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	31名 (6名)
総 事 業 費	127,782 円	うち基金助成額	126,000 円
事業の目的	県境を接する宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部が互いの漁業について情報交換し交流を深める。		
活動の内容	<p>宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部との交流会の開催</p> <p>1 開催日時 平成20年8月7日(水) 14:00~17:30</p> <p>2 開催場所 大船渡市「大船渡プラザホテル」</p> <p>3 参加者 38名(漁業士23名、その他15名)</p>		
結 果	<p>1 講 演</p> <p>「水産物の流通戦略－ワカメ、ホタテ、アワビを対象として」と題して、中央水産研究所経営システム研究室長の宮田勉氏が講演した。</p> <p><b>【講演概要】</b></p> <p>○ワカメ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三陸ワカメ潜在需要はまだある</li> <li>・若い世代が買いたくなる簡便な三陸産商品の開発・PR</li> <li>・消費者ニーズ(安全安心、健康)に応えれば輸入に対抗できる</li> <li>・三陸ブランドを魅力的に表示(ネーミング、キャッチフレーズ、ロゴ)→三陸ブランド魅力を引き出す。</li> <li>・三陸産にとって、関西圏市場は厳しい市場、逆に未開拓地、生産量が十分確保できれば新たな市場</li> <li>・安定供給(企業の国内回帰) 岩手+宮城=三陸</li> <li>・輸入品の潜在能力はまだある</li> <li>・徹底した偽装対抗策が必要</li> </ul> <p>○ホタテガイ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の国内ホタテガイ需給バランスは輸出で決定している</li> <li>・世界需給は、他国の増産(アルゼンチン等)、水産物需要増大によって、微妙なバランスで推移中</li> <li>・国内市場は過剰供給で、差別化が困難</li> <li>・北海道が生玉を増産する可能性がある</li> <li>・産地対策:コスト計算とコスト削減、緊急事態を想定した経営プランを策定しておく必要がある(コンティンジェンシー・プラン)</li> </ul> <p>○アワビ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本以外の先進国(EU、アメリカなど)へ輸出するチャンネルを開発する</li> <li>・新たな商品を開発し、国内を中心に需要拡大そして、輸出拡大も視野におく</li> <li>・乾鮑を生産して中国へ輸出</li> </ul>		

- ・日本へ鮮鮑or塩蔵アワビを輸出して、日本で乾鮑に加工して、中国へ輸出する？
  - ・乾鮑生産協議会の設立（管理母体）：岩手、宮城、青森、千葉、三重の加工業者等、生産関係団体、行政がメンバー
  - ・ブランド管理手法の開発
  - ・ブランド品とノーブランド品のブランド化とその峻別
  - ・失墜したブランドの改善PR戦略
  - ・ブランドエクイティ戦略+パブリシティ・PR戦略
- 2 話題提供
- 両漁業士会の活動（研修視察報告）について、熊谷青年漁業士（岩手）及び小野寺青年漁業士（宮城）がそれぞれ話題提供を行った。
- 3 意見交換
- 上記講演及び話題提供に関して参加漁業士による意見交換を行った。

結 果



課 題 名	かき・ほたてがい養殖情報交換会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構 成 員 数 (うち参加者数)	102名 ( 13名)
総 事 業 費	370,809 円 ( 2,940 円)	うち基金助成額	370,000 円 ( 2,940 円)
事業の目的	かき・ほたてがい養殖経営をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、漁業士活動の促進を図る。		
活動の内容	<p>1 開催日時：平成20年8月1日（金）13：30～16：00</p> <p>2 開催場所：岩手県漁業協同組合連合会南部支所（大船渡市）</p> <p>3 参加者数：26人（漁業士13人）</p> <p>4 内 容：</p> <p>(1) 話題提供 ① 企業体経営によるカキ養殖（平成19年度国内研修報告）（熊谷青年漁業士）</p> <p>② 北海道日本海北部ホタテガイ種苗生産現地調査報告について（久慈地方振興局水産部）</p> <p>③ 綾里小石浜地区におけるほたて養殖の現状について（大船渡支部の佐々木（靖）指導漁業士）</p> <p>④ ホタテガイ種苗の今年の状況について（水産技術センター・県漁連）</p> <p>(2) 意見交換 ① ホタテ養殖の今年の状況について</p> <p>※カキ養殖については、時間が無く意見交換できず</p>		
結 果	<p>【ホタテガイ養殖について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に今シーズンのホタテ稚貝不足懸念について情報交換</li> <li>・県内各地域における付着調査は今後本格化するため、不足稚貝数は憶測の域</li> <li>・北海道は不調、陸奥湾は最終的に付着良好等の情報提供あり</li> <li>・吉浜湾では6/30耳吊り→7月上旬斃死との情報。沖よりも岸側の漁場では死んでいない様子</li> <li>・越喜来でも7月中旬に斃死が確認されている。エラカザリが多い。</li> <li>・6月下旬から7月上旬にかけて「水が変わった」との情報あり。</li> <li>・水技センターにおいて6月下旬から7月上旬にかけての水温の推移等を調査するよう要望あり。</li> </ul>		
			

課 題 名	わかめ・こんぶ養殖情報交換会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構 成 員 数 (うち参加者数)	103名 ( 16名)
総 事 業 費	370,809 円 ( 19,440 円)	うち基金助成額	370,000 円 ( 19,440 円)
事業の目的	わかめ・こんぶ養殖経営をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、漁業士活動の促進を図る。		
活動の内容	1 開催日時：平成20年12月9日（火）11：30～15：00 2 開催場所：水産技術センター大会議室 3 参加者数：29名（うち漁業士15人） 4 内 容： (1) 話題提供 ① まつも養殖について（水産技術センター） ② わかめ・こんぶ流通の動向について（県漁連） (2) 意見交換 ワカメの種苗生産・省力化等について		
結 果	①わかめ種苗の生産状況 ・各支部の漁業士から、生長が遅れ気味であるとの報告があった。 ・釜石支部の漁業士から、湾内南側で浅所に保苗した種苗は良好であるとの報告もあった。 ②作業の省力化 ・水産技術センター・大野主任専研から、高速塩漬装置の紹介があり、参加者から同装置に期待している旨の発言があった。 ・県漁連小林販売課長から、買受人から高速塩漬装置で生産した湯通し塩蔵わかめの品質が不明であることから、従来品とは分けて上場して欲しいとの要望があり、検討中であるとの発言があった。 ③良質の生産、流通・加工対策について ・冷凍生わかめ業者は柔らかいわかめ、湯通し塩蔵業者は肉厚なわかめを求めている。 ・ 3～4月にかけて長くわかめを刈り取り出来るように、早種、遅種、地種と使い分けしている。		



課 題 名	女性漁業士情報交換会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構 成 員 数 (うち参加者数)	102名 ( 7名)
総 事 業 費	370,809 円 ( 31,800 円)	うち基金助成額	370,000 円 ( 31,800 円)
事業の目的	女性漁業士活動をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、今後の活動に資する。		
活動の内容	<p>1 開催日時：平成20年10月28日（火）13：30～15：00</p> <p>2 開催場所：浄土ヶ浜パークホテル</p> <p>3 参加者数：17人（うち漁業士7人）</p> <p>4 内 容：</p> <p>(1) 話題提供 ① 漁家の基礎的な税知識（宮古税務署伊藤上席国税調査官） ② 救命胴衣の着用の推進について（宮古海上保安署相馬海上保安官）</p> <p>(2) 意見交換 漁家経営について</p>		
結 果	<p><b>【漁家経営における税務処理】</b></p> <p>1 雇用者のおやつ等の取り扱い</p> <p>2 専従者の取り扱い</p> <p>3 家族の扶養</p> <p>4 自家用車の事業按分</p> <p>5 税理士に依頼した申告</p> <p>出席漁業士のうち4名が青色申告を行っており上記について質問及び意見交換がなされた。</p> <p><b>【救命胴衣着用推進】</b></p> <p>実際に、救命胴衣を膨張させ、着用具合を確かめ、有用性を確認した。初めて着用した者がほとんどで有用性を再確認。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>		

課 題 名	漁船漁業情報交換会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構 成 員 数 (うち参加者数)	102名 ( 13名)
総 事 業 費	370,809 円 ( 37,000 円)	うち基金助成額	370,000 円 ( 37,000 円)
事業の目的	漁船漁業経営をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、漁業士活動の促進を図る。		
活動の内容	<p>1 開催日時：平成21年2月5日(木) 11:25~16:30</p> <p>2 開催場所：県久慈合同庁舎6階会議室</p> <p>3 参加者数：48名(うち漁業士 13名)</p> <p>4 内 容：</p> <p>(1) 話題提供 ① あわびの放流効果向上について(岩手県水産技術センター)</p> <p>② 岩手のヒラメとミズダコの資源状況と資源管理について(岩手県水産技術センター)</p> <p>③ なまこ種苗の試験放流について(岩手県水産技術センター)</p> <p>④ 沿岸漁船の燃油特性について(水産工学研究所長谷川室長)</p> <p>⑤ 漁船漁業の省エネルギー技術の取組事例について(水産海洋システム協会酒井技師)</p> <p>(2) 意見交換 漁船漁業経営について</p>		
結 果	<p><b>【話題提供】</b></p> <p>1 あわびの放流効果向上について 放流効果を向上させるためには、漁場の特徴を把握した漁場管理と放流事業を展開すること。</p> <p>(1) 漁獲率の向上：標識放流により漁場毎の漁獲率を把握し、適正な漁獲を行う。</p> <p>(2) 餌料対策：海中林や投餌を行い餌料不足を改善する。</p> <p>(3) 漁場毎の投資効果：あわび放流事業投資効果算出シートの活用、適正な所へ人工種苗を放流する。</p> <p>2 岩手のヒラメとミズダコの資源状況と資源管理について</p> <p>(1) 岩手県で行われている資源管理：①ヒラメ(全長30cm未満魚の採捕禁止、6~10月のいかりとめ刺網4寸目未満使用禁止、110万尾種苗放流)、②ミズダコ(体重2kg未満の再放流、九戸地区以外 平成21年7月31日まで体重1kg未満の再放流)、③マコガレイ(全長20cm未満魚の再放流)、④アイナメ(全長25cm未満魚の再放流)</p> <p>(2) ヒラメの資源の現状と管理： ・ヒラメ資源の現状(現時点ではこれまでの最高水準、平成18年以降、加入量の減少。平成19、20年の天然資源発生量は低位で減少傾向。) ・資源管理にむけて(全長規制：県漁業調整規則。種苗放流の効果を高める。資源に対する添加量を増加させる。)</p> <p>(3) ミズダコ資源と漁獲の関係： ・数年に一度資源は増加し、資源の増加分以上に漁獲されている現状</p>		



結 果	<p>・漁獲量の安定化：資源管理の継続した実施 平成21年度から全県的に2kg規制</p> <p>3 ナマコ種苗の試験放流について</p> <p>(1) ナマコの特徴</p> <p>①分布：北海道から九州まで広く分布メ</p> <p>②生息域：潮間帯から水深20～30m</p> <p>③食性（不選択制海底堆積物捕食）：稚ナマコ（付着珪藻、有機沈殿物）、成体（砂泥中の有機物、付着珪藻、海藻などの破片）</p> <p>④休眠（夏眠）：夏から秋の高水温期に餌を食べなくなる。</p> <p>⑤内蔵吐出：害敵に襲われたり、強いショックを受けると肛門から消化管等を吐き出す。</p> <p>⑥再生力旺盛：半分に切断してもそれぞれが再生する。</p> <p>(2) 調査結果</p> <p>①ナマコの生息量調査：岩手沿岸4海域、24カ所、76地点で実施した。</p> <p>②全体のナマコの生息量：0.25個/m<sup>2</sup>、41.2g/m<sup>2</sup>であった。</p> <p>③出現したナマコ：9割がアオナマコ。うちイボ足が小さき個体は1割程度。</p> <p>④底質の種類：砂地でのナマコの分布は少なかった。転石と砂の混合、転石と岩盤と砂の混合、岩盤上に砂がのっている地点では、ナマコの分布密度0.1～0.5個未満の階層の地点が多かった。</p> <p>4 沿岸漁船の燃油特性について</p> <p>(1) 沿岸小型漁船に燃油流量計を装備してリアルタイムの燃料消費量のモニタリングを可能とした。</p> <p>(2) 一本釣り操業、底曳網操業等の漁業種類に応じて燃料消費特性は違う。 一本釣り操業では往航と復航、底曳では操業時に燃料を消費する。</p> <p>(3) 漁船漁業の省エネルギー化に向けて現状把握は重要である。</p> <p>(4) 具体的な省エネルギー化の方策</p> <p>5 漁船漁業の省エネルギー技術開発の取組事例について</p> <p>(1) イカ釣：集魚状況に応じて、メタハラ灯を消灯し、燃油消費量を削減する。メタハラ灯火（160kW）→パネル型LED集魚灯（40kW）+メタハラ灯（105kW）、1航海あたりの平均燃油消費量：試験前 753 l→試験中586（22%減）</p> <p>(2) サンマ棒受け網：集魚状況に応じて、メタハラ灯を消灯し、燃油消費量を削減する。 メタハラ灯火（608kW）→全灯LED集魚灯（拡散配光型）（56 kW、出力92%）に換装 航海全体：既存形態 14,290L→実証形態8,844 L（41%減） 集魚灯燃料消費量：既存形態 6,328L→実証形態234 L（96%減） 漁獲量：既存集魚灯操業時とほぼ同等の漁獲量を確保。操業時間・操業回数も従前と変わらず。</p> <p>(3) まき網：省エネ網（網地にダイニーマを使用、袖網部・袋網部の一部を大目合化） （※漁具への抵抗を軽減し、燃油消費量を削減する。） 航海全体：既存形態 7,352L→実証形態6,767 L（8.0%減）</p>
-----	--

結 果

集魚灯燃料消費量：既存形態 5,610L→実証形態5,025 L (10.4%減)

漁獲量：実証試験操業では、従来網よりも漁獲成績は良好であった。

(4) 沖合底曳網：プロペラ前のフィンにより、プロペラによる回転流エネルギーを回収して推進効率を向上させる。実証試験を実施した、沖合底曳網漁船（125トン型）では、本フィンを取り付けることにより、5.7%の所要馬力低減が示された。

(5) 船体の付加物（魚探ボックス等）による流れの剥離を抑制し、粘性圧力抵抗を軽減する。（円柱と流線型の抵抗の違い）

(6) 船体の付加物（魚探ボックス等）による流れの剥離を抑制し、粘性圧力抵抗を軽減する。（まぐろ延縄漁船の船体付加物《ビルジキール等》の形状を低抵抗型に換装

(7) 主機関 540kW→435 kW + 推進モーター90 kW（発電機 104 kW）※操業中の低負荷時に主機関を停止し、推進モーターにて操業を実施。

操業時：実証船 112L→同型在来船195.7 L (42.8%減)

全体消費量：実証船 219.8L→同型在来船327.7 L (32.9%減)

(8) 推進効率の向上に資する技術、推進抵抗の軽減に資する技術→主機関の回転数を落とし、従来と同等の速度で航走して省エネルギーが達成される。→現状と同等の回転数で航走しては省エネルギーの達成はあり得ない。

機関効率の改善に資する技術 適切な動力源の選定等により省エネ効果を発揮→使い方を誤れば、省エネ効果は得られない。→漁船の省エネには運用技術が不可欠。

(9) 運用技術（ソフト面）：①最適運転（減速運転）の実施、②機関システムの最適運用の実施→技術実証と併せて、省エネルギー技術が活かされるような個々の運用マニュアルを作成し実行することが肝要！！


6 意見交換

(1) どんどん漁業者の収入が減っている。サケの刺し網を許可制にして、水揚げできないものか。漁業者は何とかして収入を上げないと生きていけない。さけは延縄で許可制となっているが、それ以外の漁法の改革（検討）の余地はないのか。


(2) トロール、旋網が莫大な量のさけを採っている。岩手県には旋網船がない。岩手県沖で採り、よそでそっと水揚げをしている。水深200m以浅は網を捲けなはず。カゴ漁業としては、旋網船が大陸棚に入ってきては困る。岩手県沿岸の漁業がだめになる。


(3) 漁業の担い手がいなくなっている。めしを食べていけない。急いで対応しなければならぬところ。燃料、資材は安くない。生活費がなくなっている。



課 題 名	青年漁業士等現地研修会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構 成 員 数 (うち参加者数)	102名 ( 4名)
総 事 業 費	370,809 円 ( 0 円)	うち基金助成額	370,000 円 ( 0 円)
事業の目的	青年漁業士等を対象として、ワカメ養殖の省力化等の先進的事例を視察し、今後の経営の参考とする。		
活動の内容	<p>1 開催日時：平成20年11月12日（水）13：30～16：00</p> <p>2 開催場所：陸前高田市広田町泊漁港 広田湾漁業協同組合会議室</p> <p>3 参加者数：15名（うち漁業士4名）</p> <p>4 内 容：</p> <p>(1) 現地視察 ワカメ省力化機器（陸上刈取装置、高速塩漬装置、船上刈取装置、協業化作業船）</p> <p>(2) 研修及び意見交換</p> <p>① 「省力化機器の実際の稼動状況等について」（水産技術センター大野主任専門研究員）</p> <p>② 「広田におけるパイロット事業の取組について」（金澤菊男指導漁業士）</p> <p>③意見交換</p>		
結 果	<p>(現地視察)</p> <p>各装置の見学では、実際に稼動させてその状況をみた。また高速塩漬装置の網袋などに関する質問等も出されました。</p> <p>(研修及び意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修では、広田湾漁協のワカメ協業体、パイロット事業の状況、当日展示した装置の現場での稼動状況等をビデオ映像などを交えて話題提供をしていただき、また、地元の指導漁業士から、具体的な取り組み状況や共販事業との比較などを説明</li> <li>・ 佐々木組合長（指導漁業士）を交え、協業体のスタートした当時の状況や漁協の協力体制などについて説明をいただきながら、活発な意見交換が行われました。また、一部の出席者が指導漁業士が自宅に設置した冷蔵庫などを見学しました。</li> </ul>		
			

④ 地区活動実績発表大会



課 題 名	第31回気仙地区漁村青壮年助成研究グループ活動実績発表大会		
実 施 主 体	JF 岩手漁青連気仙支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(82名)
総 事 業 費	108,344 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	漁村青壮年女性活動の実績や研究成果の発表等を通じて意見交換を行い、活動意欲の高揚と活動成果を広く普及させる。		
期日、場所 参加者等	1 開催日時：平成20年7月18日14：00～17：00 2 開催場所：岩手県漁連南部支所大会議室 3 参加者：約82名（漁青連支部会員、女性部、市県他）		
結 果	1 実績発表（研究会及び女性部の地区代表による発表） (1) 「マツモ養殖試験について」 （越喜来漁協青壮年部 及川 省吾） (2) 「土曜市における女性部の関わりと魚食普及」 （広田湾漁協女性部気仙支部 菅野 千代） 2 特別発表 (1) 「海洋的有効利用 海からの助っ人」 （高田高等学校3年海洋科学コース 三浦、吉田） (2) 「続・発酵調味料 貝醬誕生」 （高田高等学校3年食品化学コース 畑中、中田、橋口） 3 話題提供 (1) 「漁業士会大船渡支部 研修視察報告」 （青年漁業士 熊谷 政之） (1) 「岩手県における漁場保全の方向について」 （大船渡水産部普及指導員 荒木 貴郎）		
			

課 題 名	釜石地区活動活動発表会		
実 施 主 体	JF 岩手漁青連上閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(49名)
総 事 業 費	61,990 円	うち基金助成額	50,000 円
事業の目的	漁業青壮年の活動について発表並びに研究討議を行い、知識と情報の相互交換と活動意欲の高揚を図るとともに、活動成果を広く普及し、もって沿岸漁業等の進行に寄与しようとするものである。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成20年7月30日（水） 場 所：岩手県水産技術センター 大会議室 参集者：管内漁協青年部、女性部、漁協、県漁連、市町、県の担当職員等（計49名）		
結 果 及 び 考 察	<p>次の活動実績発表が行われた。</p> <p>1 活動実績発表（1 課題） 釜石湾漁協 青年部 佐々木 洋裕 氏 「釜石湾の静穏化に伴う漁場適正化試験」～生産性向上に向けて～</p> <p>2 特別発表（2 課題） 尾崎うみの子少年団（釜石市立尾崎小学校） 「尾崎うみの子少年団活動概要」 （ワカメ漁業体験、清掃活動、新巻作り、海の子版画カレンダーづくり） 岩手県立大槌高等学校 自然科学研究会 「大槌産イトヨの研究」</p> <p>次世代を担う地元小中学生の漁業体験活動等の発表機会を設け、表彰することにより、今後の活動に対する意欲向上が図られた。また、漁業指導等を通じて地域の担い手育成に寄与する青年部活動の内容が出席者に理解された。</p>		
			







課 題 名	第26回下閉伊地区漁村青壮年活動実績発表会		
実 施 主 体	JF 岩手漁青連下閉伊支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(44名)
総 事 業 費	207,950 円	うち基金助成額	60,000 円
事業の目的	活動状況報告、研究発表、女性との意見交換等により、地区内の研究グループ及び青年部等の活動意欲を高める。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成20年6月20日 場 所：宮古市 「ホテル近江屋」 参加者：田野畑村漁協浜岩泉浦女性部 大沢養殖研究会、重茂漁協青年部、宮古漁協青壮年部 田老町漁協青壮年部、田野畑村漁協青年部、 山田町産業振興課、宮古市水産課 岩手県漁連、宮古水産高校、水産技術センター、宮古水産部		
結 果	1 田野畑村漁協浜岩泉浦女性部 活動実績発表 「いのち愛のきずな 浜の母ちゃん50年」 2 宮古水産高校 食品管理コース 活動発表 「水産物の有効利用」－漁業系廃棄物を環境剤へ！～夢は大きく「砂漠に緑を」～ 3 田野畑村漁協青年部 活動実績発表 「地域一体となった青年部活動」 4 各研究会、青年部活動実績報告 5 研 修 「マツモ養殖について」 水産技術センター 増養殖部 小野寺専門研究員		






課 題 名	九戸地区漁村青壮年活動実績発表会		
実 施 主 体	JF 岩手漁青連九戸支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(81名)
総 事 業 費	114,650 円	うち基金助成額	100,000 円
事業の目的	九戸地区の漁村青壮年が一堂に会し、活力ある漁村づくりに向け組織活動の充実と生活改善のための情報の交換を積極的に推進し、会員資質の向上を図る。		
期日、場所 参加者等	1 期 日：平成20年6月24日（14時から17時） 2 場 所：久慈市（グランドホテル） 3 参加者：81名（男60名、女21名、事務局及び来賓等を含む）		
結 果 及 び 考 察	(活動実績発表) 1 高校生の活動発表 「地域水産物を利用した水産練り製品の開発～地域と共に」 (県立久慈東高等学校 海洋科学系列3年) 2 女性部の活動発表 私たちの女性部活動」 (野田村漁協女性部) 3 研究グループの活動発表 (1) 「小久慈焼きブロック海中林試験」 (宿戸漁業研究会) (2) 「ナマコ中間育成試験について」 (二子漁業研究会) (3) 「マツモ養殖試験」 (野田漁友会) (4) 「ウニの生産性調査～ALC標識放流」 (小子内浜漁業研究会) ※ 小子内浜漁業研究会の発表が地区の代表に選考された。 (研修会) 講 演：「漁師、科学者を目指す」について 講 師：岩手県水産技術センター漁場保全部 専門研究 高木 稔		
	 		

イ 漁業女性活動

課 題 名	魚食普及活動（消費地における「殻付カキ」の実演販売）		
実 施 主 体	広田湾漁協女性部広田支部	構 成 員 数 （うち参加者数）	633名 （ 5名）
総 事 業 費	361,491 円	うち基金助成額	289,000 円
事業の目的	消費地での実演販売を実施することによって、ノロウイルス風評被害緩和、消費地に「広田湾産カキ」の安全・安心さをPRしてカキの消費拡大を図る。		
期日、場所 参加者等	<p>1 実 施 日：平成20年12月11日</p> <p>2 実施場所：神奈川県 横浜シャル（JR横浜駅ビル）地下1階</p> <p>3 参 加 者：4名</p> <p>1 実 施 日：平成20年12月12日</p> <p>2 実施場所：神奈川県 多摩センター三越地下1階</p> <p>3 参 加 者：4名</p>		
結 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 築地市場を通して「殻付カキ」を販売している（株）吉川水産が出展している神奈川県及び東京都の2店舗にて実演（カキ剥き）販売を実施した。</li> <li>・ 横浜シェル店では、「殻付カキ」Mサイズ30ケース（120個入）と試食品Mサイズ5ケース（120個入）を販売し、大盛況であった。</li> <li>・ カキの身入りが良く、大好評で、多くの人に買っていただいた。</li> <li>・ 多摩センターでは、「殻付カキ」Lサイズ10ケース（80個入）と試食品Mサイズ1ケース（120個入）を販売した。Lサイズなので大きすぎ、なかなか売れなかった。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>		

課 題 名	県内小学校を対象にした「魚食普及活動」及び県外での試食会開催による魚食普及拡大		
実 施 主 体	大船渡市漁協女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	960名 ( 40名)
総 事 業 費	807,853 円	うち基金助成額	303,000 円
事業の目的	県内陸部（奥州市立田原小学校）の小学生及び父母を対象にサケ、カキ、ワカメ、サンマの料理教室等の開催と県外での魚食普及に努める。		
期日、場所 参加者等	<p>◎横浜市場まつり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実 施 日：平成20年10月19日（日）</li> <li>2 実施場所：横浜市中心卸売市場</li> <li>3 参 加 者：9名（女性部3名、漁協職員2名、大船渡市水産課ほか4名）</li> </ol> <p>◎親子料理教室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実 施 日：平成20年11月7日（金）</li> <li>2 実施場所：奥州市田原小学校</li> <li>3 参 加 者：17名（女性部12名、漁協職員4名、大船渡市水産課1名）</li> </ol>		
結 果	<p>◎横浜市場まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚介類の美味しさを知って貰うため、カキフライ、カキ汁、焼きホタテの販売をおこない、沢山の方に好評を博した。</li> <li>・ また、塩蔵ワカメとレシピの配付をおこない、ワカメにも様々な調理法があることを知って貰った。</li> </ul> <p>◎親子料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班に分かれ、イクラ作り、カキフライ、サンマのすり身汁、サケのちゃんちゃん焼きの料理教室やカキの殻剥き体験を実施し、調理後試食会を行った。父母の参加者も年々増え、親子で楽しんで作業をしていた。</li> </ul>		
	 		

課 題 名	魚食普及活動		
実 施 主 体	広田湾漁協女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	954名 ( 5名)
総 事 業 費	208,422 円	うち基金助成額	156,000 円
事業の目的	住田町をはじめ、近隣市町村の住民に、東京築地市場で高い評価を得ている広田湾産の「カキ」「ホタテ」等の試食会を実施し、山・川・海の恵みへの感謝と魚食普及を図るとともに、併せて、わかしお石鯛（天然石鯛）を紹介し、漁場環境の保全の意識啓発を図る。		
期日、場所 参加者等	料理試食会「あがらんせ広田湾」の開催 1 実 施 日：平成21年2月7日 2 実施場所：キャピタルホテル1000 3 参 加 者：64名（住田町及び陸前高田市内女性団体、広田湾漁協女性部員）		
結 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試食会のメニューは13品（カキ料理6品、ホタテ料理6品、ワカメ料理1品）</li> <li>・ 参加者に対しアンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>① カキ料理を食べる頻度は月2～3回が54%</li> <li>② カキ購入の際に産地を気にする人が89%</li> <li>③ 土曜朝市に行ったことのある人が39%</li> <li>④ わかしお石鯛を使ったことのある人が52%</li> </ul> </li> <li>・ 人気メニューの順位は、第1位が「活ホタテ貝とキノコパイ包み焼き」、第2位が「カキの殻付グラタン」、第3位が「カキと野菜色々ピリ辛炒め」と「炊き込みご飯」だった。</li> </ul>		
	 		

課 題 名	釜石湾漁場環境保全啓発活動		
実 施 主 体	釜石湾漁協白浜浦女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	133名 ( 10名)
総 事 業 費	60,020 円	うち基金助成額	60,000 円
事業の目的	わかしお石けん利用等による釜石湾内の漁場環境保全を釜石市民に訴えるとともに、釜石湾産カキをPRすることを目的とする。		
期日、場所 参加者等	イベント名：三陸釜石水産工場一斉蔵出大即売会 開催日時：平成20年11月30日（日）9：00～14：00 場 所：シープラザ遊（釜石市） 来 場 者：3,002名		
結果及び 考 察	<ol style="list-style-type: none"> <li>釜石市のイベントである三陸釜石水産工場一斉蔵出大即売会で、①わかしお石けん各種製品の展示販売、②釜石湾産カキ汁の試食によるPRを行った。</li> <li>わかしお石けん各種製品の展示販売は、部員5名で行い、32,790円を売り上げた。来場者の目当ては水産加工品であり、わかしお石けんの販売は難しいと考えていたが、部員の頑張りによって予想外に多い売り上げになった。</li> <li>釜石湾産（尾崎産）カキを使ったカキ汁は、部員5名で、カキ480個を使い約240食分を作り無料で振る舞った。人の流れが途切れた時間（11時）ではあったが、約15分で無くなり来場者からは美味しいと好評であった。また、主催者から来年の実施も期待されるなど評価された。</li> <li>釜石湾内の環境を守るため、女性部のわかしお石けん利用促進の取り組みと釜石湾漁協が岩手県知事の認定を受けた未来につなぐ美しい海計画を紹介しながら、釜石市民に釜石湾内の漁場環境保全を訴えることが出来た。</li> <li>更に、女性部が取り組んでいるライフジャケット着用推進運動のPRもすることが出来た。</li> <li>衛生管理に万全を期すため、使用したカキは11/28（金）に部員5名により水産技術センター加工実験室で蒸して殻剥きし、-20～-30℃で冷凍保存した。イベント当日に、解凍してカキ汁を作ったので、剥きたてのカキを調理したものより、身が固く、出汁が少なかったという課題があったので、来年に実施する場合には改善したい。</li> </ol>		
			



課 題 名	水産加工品の開発		
実施主体	はまなすの会 代表 三浦 絃子	構 成 員 数 (うち参加者数)	27人 (15名)
総事業費	95,000 円	うち基金助成額	90,000 円
事業の目的	地元食材を使った水産加工、新製品の開発を図る。		
期日、場所 参加者等	<p>1 新製品の開発 ボイル塩蔵加工したわかめを購入し、中芯等を使った新製品の開発を行った。</p> <p>2 試作品試食会 試作した「わかめ茎の佃煮」を「釜石・大槌郷土料理を楽しむ会」で試食に提供し、参加者から意見や感想を聞いた。 試食会開催日：6月4日、9月16日</p> <p>3 勉強会 製品開発への助言を得るため、調理師の川村 保氏を講師に依頼して、調理実習を兼ねた勉強会を開催した。 第1回：開催日：6月14日、場所：根浜健康センター、参加者：10名 第2回：開催日：8月23日、場所：根浜健康センター、参加者：8名 第3回：開催日：10月18日、場所：根浜健康センター、参加者：12名</p> <p>4 地元イベントへの参加 地元で開催された下記のイベントに参加して、試食品を提供しての販売活動を行った。また、アンケート調査結果を参考にして商品の完成度を高めた。 ①三陸釜石水産工場一斉蔵出し大即売会：11月30日（シープラザ遊） ②釜石冬の味覚祭り：1月17～18日（シープラザ遊）</p> <p>5 平成20年度岩手県水産加工品コンクール 2つの新商品をコンクールに出展した。 ①「くきちゃん」（わかめ茎の佃煮、100g、100円） ②「わかめクッキー」（わかめ入りバター風味のクッキー、100g、200円）</p>		
結果及び 考 察 (活動内容)	<p>○ 地元食材であるボイル塩蔵わかめを使い、わかめ茎の佃煮「くきちゃん」と「わかめクッキー」を作成した。</p> <p>○ 試食、販売活動を通じて完成度を高め、水産加工品コンクールへ出展したが、入賞はできなかった。</p> <p>○ 今年度の活動により得られた意見や感想を基に、さらに創意と工夫を重ねる必要がある。</p>		



結果及び  
考察



地元イベント・冬の味覚祭り（1/17～18）



くきちゃん



わかめクッキー




平成20年度岩手県水産加工品コンクール（1/21）

課 題 名	地元の水産物等を活用した産直市の開催		
実 施 主 体	大槌町漁協女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	455人 (12名)
総 事 業 費	237,031 円	うち基金助成額	200,000 円
事業の目的	地元水産物の顔の見える販売等とおして、産地の知名度向上及び地産地消を促進し、水産物の付加価値向上と地域の活性化を図る。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成20年12月7日（日） 場 所：大槌川河川敷（大槌北小学校前 鮭つかみどりイベント会場） 参集者数：イベント会場への来場者数は約5,000人（主催者の推計） 前日の準備作業に女性部員8名、当日の販売に女性部員10名（漁協職員3名が補助）が携わった。		
結 果 及 び 考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定置網等で水揚げされたサケ等の鮮魚、スルメイカ、地物養殖ホタテガイ、冷凍サンマ、および鮭おにぎりを販売した。 販売品目は次のとおり サケ（トキシラズ8,600、メス3,300円、オス1,600円） タナゴ、アジ、ホウボウ、カガミダイ、エイ（1パック200円） ヒラメ、クロソイ（1パック300円）、スルメイカ（3杯で300円） 養殖ホタテガイ（5枚で500円）、サンマ（1尾10円） おにぎり（2個入り200円）</li> <li>・ 鮭以外の鮮魚、スルメイカ、ホタテガイは発泡トレーにパック詰めしてトロ箱の碎氷上に展示し、サンマは袋詰で販売した。 鮭おにぎりは、女性部が地元産サケフレークを使用して手作りしたものを販売した。（添付写真を参照）</li> <li>・ 鮭は5尾、鮮魚等は約100パックを準備したところ、販売直後から来客が殺到し、2時間ほどで完売した。販売金額は61,000円（仕入れ金額は44,296円）であった。</li> <li>・ 鮭おにぎりは、主催者からの依頼で販売した「鮭汁」と併せて好評で、用意した32パック（6,400円、材料費の仕入額は5,640円）を、販売してまもなく完売した。</li> </ul> <p>（課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は鮭つかみどり会場を利用して実施したことで、来場者数が埼玉県他県内外から約5,000人と多数であったことと、販売価格を格安に設定したことから完売できた。今後は、人件費等の経費も考慮して収支を考えた価格の設定と、新たな開催場所も検討する必要がある。</li> </ul> <p>（次年度への展開）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の課題を踏まえて、実行に向けて前向きに考えたい。</li> </ul>		

結

果




課 題 名	マツモ養殖・販売試験		
実 施 主 体	小子内浜漁協女性部	構 成 員 数 (うち参加者数)	85人 (50名)
総 事 業 費	295,760 円	うち基金助成額	200,000 円
事業の目的	洋野町で生産される種系により、干出岩盤上におけるマツモ養殖とその収益性を検討し、地域特産品としての販売戦略の検討に資する。		
期日、場所 参加者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種市漁協（川尻生産部）によるマツモ種系生産が再開され、安定した供給が見込まれる。</li> <li>・洋野町内に特有の干出岩盤上は、天然マツモの生育に適する水深帯であるが、ここでのマツモ養殖が成功した実績はまだない。</li> <li>・干出岩盤上でのマツモ養殖が可能となれば、地域特産品としての販売が可能となる。</li> </ul>		
結 果 及 び 考 察	<p>1 10月 マツモ養殖試験施設設置</p> <p>(1) 鉄筋（直径2.4cm×長さ50cm）93本</p> <p>(2) 幹綱（直径2.6cm）、400m（60m×10本）</p> <p>2 12月 マツモ種系</p> <p>1,600m（50m×3本直列×幹綱10本）巻き込み</p> <p>3 販売結果</p> <p>(1) 1月8日 北三陸市場（久慈市）へ生で2.6kg出荷した。販売単価1,200円/kgで、販売金額は3,120円。</p> <p>(2) 3月3日 (株)久慈物産市場（久慈市内）へパック詰出荷</p> <p>50g入り 30円/パック×100パック 販売金額 3,000円</p> <p>100g入り 80円/パック×48パック 販売金額 3,840円</p> <p>・浜での個人売り2kg 販売単価800円/kgで、販売金額は1,600円。</p> <p>課 題</p> <p>当初計画より、収穫量、販売単価は下回る結果となったため、養殖方法（寒風による種苗糸凍結対策）、販売方法（管内の市場以外、直売等）を今後検討していく必要がある。</p>		
			







(4) 異業種間交流事業 (実績なし)




(5) 特認事業


ア 少年海づくり大会事業

課 題 名	特認事業 (少年海づくり大会事業)		
実 施 主 体	大船渡地区漁業担い手育成推進協議会	構 成 員 数 (うち参加者数)	(150名)
総 事 業 費	200,670 円	うち基金助成額	200,000 円
事業の目的	明日の漁業の担い手と漁業の理解者となる次代を担う少年の育成を図るため、管内海づくり少年団3団体の参加による連携交流を図る。		
期日、場所 参加者等	1 開催日時：平成20年7月26日(土) 9:30~15:00 2 開催場所：高田高等学校広田校舎及び六ヶ浦漁港 3 参加者：150名(少年団員90名、その他(学校関係者、漁業関係者、市町村関係者、県関係者)60名)		
結 果	1 広田海水浴場において、水上バイク及びモーターボートの乗船体験を行った。 2 高田高校広田校舎食品製造実習室においてスケソウを原料としてかまぼこづくり及び広田産ホタテガイを使用したホタテ缶詰づくりを体験した。 3 高田高校広田校舎食品製造実習室において、広田産ホタテガイを使用したホタテ汁づくりをおこない、その後参加者で試食した。		
			
			

課 題 名	釜石地区少年海づくり大会（海辺の自然体験学校）		
実 施 主 体	釜石夢わかめ交流推進事業実行委員会 釜石地区漁業担い手育成推進協議会	構 成 員 数 (うち参加者数)	(104名)
総 事 業 費	- 円	うち基金助成額	0 円
事業の目的	釜石大槌地区海づくり少年団交流大会の開催		
期日、場所	<p>期 日：平成20年 8 月 9 日</p> <p>場 所：釜石湾内 泉地区（ケーソンヤード）及び海岸</p> <p>参 集：釜石・大槌地区海づくり少年団（管内 4 少年団）等小学生 29人          横浜NPO（小、中学生） 14人          横浜NPO、支援スタッフ 20人          その他関係者：一般参加者、教職員、PTA関係者等 41人          計104人</p>		
結 果	<p>毎年、釜石大槌地区を訪れる「NPO法人海辺つくり研究会（横浜市）」と釜石夢ワカメの会の交流推進事業と連携し、地元小学校の海づくり少年団と横浜の小学生とが相互交流しつつ、海及び生物とのふれあいなどにより広く海への理解を促進した。</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稚魚放流：ヒラメ、マツカワ稚魚（200尾）を放流 つくり育てる漁業について啓発</li> <li>・ スノーケリング教室：スノーケリング体験、水中生物の観察</li> <li>・ タッチングプールによる生物観察</li> </ul>		
	   		



課 題 名	宮古地区少年団交流大会		
実 施 主 体	宮古地区漁業担い手育成推進協議会	構 成 員 数 (うち参加者数)	(69名)
総 事 業 費	104,837 円	うち基金助成額	104,837 円
事業の目的	管内の海づくり少年団を参集し、海や水産業について学習・理解することにより、地域の自然を守り大切に、地域活動に積極的に参加する心豊かな青少年の育成を図る。		
期日、場所 参加者等	期 日：平成20年7月26日 場 所：釜石市 水産技術センター 参加者：織笠海づくり少年団、重茂海づくり少年団、赤前海づくり少年団 小本海づくり少年団、島越海づくり少年団		
結 果	水産技術センター「一般公開デー」のイベント体験及びセンター見学 ア お魚図鑑（魚類スケッチ） イ 磯の生物クイズ ウ ワカメ芯抜き体験 エ 貝殻細工 オ 調査船「岩手丸」公開 カ プランクトン顕微鏡観察 キ タッチ水槽		
	  		

課 題 名	久慈地区少年海づくり交流大会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会久慈支部	構 成 員 数 (うち参加者数)	(131名)
総 事 業 費	141,497 円	うち基金助成額	141,497 円
事業の目的	海づくり少年団等の連携交流並びにつくり育てる漁業の推進を図る		
材 料 及 び 方 法	<p>(久慈地域少年海づくり大会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時：平成20年8月5日(火) 午前10時30分～午後2時50分</li> <li>・場 所：開会式／見学 岩手県栽培漁業協会種市事業所 閉会式／見学 岩手県立種市高等学校</li> <li>・参集団体：管内の海づくり少年団(5団体)</li> </ul>		
結 果 及 び 考 察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参 加 者 (合計 51名)</li> <li>少年団 宿戸海づくり少年団 (児童：24名、引率者：2名)</li> <li>中野海づくり少年団 (児童：28名、引率者：4名)</li> <li>長内海づくり少年団 (児童：10名、引率者：1名)</li> <li>久喜海づくり少年団 (児童：8名、引率者：3名)</li> <li>堀内海づくり少年団 (児童：15名、引率者：3名)</li> <li>野田村海づくり少年団 (不参加)</li> <li>( 小 計 85名 14名 99名)</li> <li>主 催 者 (代表：漁業士会久慈支部会長) (0名)</li> <li>ス タ ッ フ (県、市町村、種市高校、栽培協会種市事業所職員) (31名)</li> <li>・内 容</li> <li>1 開会式 (午前10時30分～午前11時) 主催者挨拶代読 (久慈地方振興局；関口水産部長) 行程説明 (久慈地方振興局水産部；藤本)</li> <li>2 岩手県栽培漁業協会種市事業所の見学 (午前11時～12時) 箱石所長等の案内により展示館、キタムラサキウニ・エゾバフンウニの飼育水槽等を見学した。</li> <li>3 岩手県立種市高等学校での昼食 (正午～午後1時)</li> <li>4 岩手県立種市高等学校の見学 (午後1時～2時30分) 吉田副校長、海洋開発科の教員・生徒の案内により実習棟の潜水実習プール、各実習室の見学、潜水機材のスケッチ実習を行った。</li> <li>5 閉会式 (午後2時30分～午後2時50分) 講評・閉会宣言 (久慈地方振興局；関口水産部長)</li> </ul>		
			

イ その他事業

事業 (課題)名	新規担い手確保・育成		
実施主体	大槌町漁協	構成員数 (うち参加者数)	新規就業者 (1名)
総事業費	160,000 円	うち基金助成額	150,000 円
事業の目的	漁業者の高齢化と後継者の減少が続くなど、漁業就業者の確保が難しくなっている現状にあって、漁業経験はないが若くて意欲のある新規就業者を確保、育成することにより、地域の水産業の持続的な発展を図る。		
事業の内容 (方法)	<p>(1) 採介藻漁業の实地研修 ベテラン漁業者を講師として、ウニ漁業とアワビ漁業に係る漁具の準備、取扱方法を教授し、実際の操業に出漁しての採捕方法や集荷受付の方法等について指導した。</p> <p>(2) 養殖漁業の实地研修 養殖組合の役員及び漁業士を講師に、ホヤ養殖とワカメ養殖について、現場で実際の作業を体験させることにより技術を習得させるとともに、年間の生産サイクル及び工程、作業手順等について指導した。</p>		
結果及び 考察	<p>(1) 8月21日、大槌湾漁場において、ウニ漁業の实地研修を行った。 採捕漁具であるタモ網の準備と操作方法を説明するとともに、漁場に出て、実際の採捕技術を指導した。また、漁獲物の集荷手順についても指導した。</p> <p>(2) 11、12月の3日間（アワビ開口日）、大槌湾漁場において、ウニ漁業と同様に、アワビ漁業の实地研修を行った。</p> <p>(3) 1月7日から、漁協青年部のホヤ人工採苗作業に参加させ、青年部長等を講師に、ホヤ養殖技術の指導を行った。</p> <p>(4) 3月に、ワカメの間引き作業、刈取り及びボイル塩蔵加工作業についての指導を行った。 (課題等) ・採介藻漁業は日数や時間等をかけて習得することが多く、今後も漁業体験の継続と指導が必要と思われた。 ・養殖漁業についても、各種作業の手伝い等を継続することにより、徐々に技術を習得させなければならない。 (次年度への展開) ・現在、地域外からの新規漁業就業者は1名であり、研修規模を拡大することは困難であるものの、担い手育成は必要であることから、機会を見て研修指導を継続していきたい。 しかし、新規漁業就業者の雇用（賃金や給料制）や住居の確保といった、漁協による受入れ態勢の整備にはまだまだ問題が多いので、それらの対応策を検討しつつ研修事業を行いたい。</p>		

## 5 地区協議会の運営

当基金の円滑な運営を図るため、地区協議会を下記のとおり開催しました。

なお、釜石地区協議会は、都合により年度内の開催はできなかった。

### (1) 大船渡地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(名)	協議内容	備考
平成21年 2月20日	大船渡地区合 同庁舎	17名 (15名出席)	(1) 平成20年度大船渡地区担い手育成関連事業 実施状況について (2) 平成21年度大船渡地区担い手育成関連事業 計画について (3) 視察報告 ・京都府「トリガイ養殖について」 ・宮城県「かき小屋について」	

### (2) 宮古地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(名)	協議内容	備考
平成21年 3月25日	宮古地区合同 庁舎	19名 (19名出席)	1 平成20年度漁業担い手育成基金事業実績に ついて 2 平成21年度漁業担い手育成基金事業計画に ついて	

### (3) 久慈地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(名)	協議内容	備考
平成21年 2月12日	久慈地区 合同庁舎	18名 (14名出席)	1 平成20年度久慈地区漁業担い手育成事業 (基金、県) 実績について 2 平成21年度久慈地区漁業担い手育成事業実 施計画(協議)	

## 6 事業実施状況の推移

### (1) 青少年漁業体験・交流事業

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
(児童・生徒等の漁業体験・交流活動) 大船渡地区 3 少年団 150千円 釜石地区 4 少年団 200千円 宮古地区 4 少年団+田野畑小・中 300千円 久慈地区 5 少年団 250千円 一日体験入学 3 高校 150千円  (高校クラブ等) 加工品開発・漁場環境 (広田水産高) 50千円 オキハモ新製品 (宮古水産高) 50千円 水産施設研修 (久慈東高) 50千円 ○いわて少年海つくり大会 (宮古) 1,232千円 ○少年団・制服 (赤前) 130千円	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動) 大船渡地区 3 少年団 150千円 釜石地区 5 少年団 250千円 宮古地区 4 少年団+田野畑小・中 300千円 久慈地区 6 少年団 300千円 一日体験入学 3 高校 150千円  (高校クラブ等) 加工品開発・漁場環境 (広田水産高) 50千円 ホリアナゴ製品、宮古湾環境調査 (宮古水産高) 100千円 新巻水産物加工実習 (田野畑分校) 50千円 ○少年海つくり大会等 (4 地区) 599千円 ○少年団・団旗、制服 (長内) 300千円	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動) 大船渡地区 3 少年団 200千円 釜石地区 4 少年団 200千円 宮古地区 4 少年団+田野畑小・中 300千円 久慈地区 6 少年団 300千円 一日体験入学 3 高校 150千円  (高校クラブ等) 加工品開発・漁場環境 (高田高) 100千円 水産物の有効利用、宮古湾環境調査 (宮古水産高) 100千円 ○少年海つくり大会等 (4 地区) 482千円	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動) 大船渡地区 3 少年団+長部小 200千円 釜石地区 4 少年団 200千円 宮古地区 4 少年団+田野畑小 300千円 久慈地区 6 少年団+平山小 329千円 一日体験入学 3 高校 150千円  (高校クラブ等) 加工品開発・漁場環境 (高田高) 100千円 水産物の有効利用、宮古湾環境調査 (宮古水産高) 100千円 ○少年海つくり大会等 (4 地区) 446千円
計 26件 2,562千円	計 31件 2,249千円	計 29件 1,832千円	計 29件 1,825千円

### (2) 漁業技術・経営研修事業

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
((国内研修) 種市・潜水実技研修 (上閉伊漁青連) 180千円 岡山・カキ養殖加工合理化 (漁業士会釜石) 200千円 仙台・活魚市場動向等 (下閉伊漁青連) 100千円 パソコン研修 (下閉伊漁青連) 100千円 函館・うに、あわび餌料対策 (小子内研究会) 150千円  (海外研修) なし	(国内研修) フォークリフト講習会 (上閉伊漁青連) 80千円 函館・薬場造成技術先進地視察 (漁青連下閉伊) 100千円 インターネット研修 (漁青連下閉伊) 50千円 ○少年海つくり大会等 (4 地区) 599千円 ○少年団・団旗、制服 (長内) 300千円  (海外研修) なし	(国内研修) カキの大規模経営等視察 (漁業士会大船渡) 300千円 クレーン運転技術研修 (漁青連上閉伊支部) 220千円 潜水技術研修 (船越湾漁協潜水グループ) 155千円 ホヤ養殖視察 (漁青連下閉伊支部) 23千円 全国青年・女性漁業者交流会 (漁青連) 250千円 全国青年・女性漁業者交流会 (漁協女性部連絡協) 250千円  (海外研修) なし	(国内研修) 市場流通視察調査 (広田湾漁協小友青壮年部) 210千円 玉掛け技能研修 (漁青連上閉伊支部) 220千円 ハタハタ、イワガキ資源研修 (漁青連下閉伊支部) 100千円 潜水技術研修 (船越湾漁協潜水グループ) 125千円 全国青年・女性漁業者交流会 (漁青連) 250千円 全国青年・女性漁業者交流会 (漁協女性部連絡協) 250千円  (海外研修) なし
計 5件 730千円	計 3件 230千円	計 6件 1,198千円	計 6件 1,155千円

(3) 漁業青壮年・女性活動事業

① 漁業青壮年活動

ア 試験研究等

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
エゾイシカゲガイ養殖試験(米崎)	70千円	100千円	350千円	20千円
マガキ種苗生産試験(小友)	70千円	70千円	120千円	113千円
ムラサキイガイ養殖試験(釜石東部)	80千円	70千円	60千円	350千円
イワガキ養殖試験(釜石湾)	100千円	90千円	350千円	185千円
マツモ養殖試験(大槌)	50千円	60千円	180千円	60千円
ホタテ養殖適正管理等調査(宮古)	70千円	70千円	100千円	100千円
自立的ウニ漁業実証試験(中野)	200千円	200千円		60千円
うに直売施設導入試験(宿戸)	100千円	200千円		133千円
				308千円
				130千円
計	8件 740千円	7件 660千円	6件 1,160千円	計10件 1,459千円

イ 漁業青壮年交流活動

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
支部情報交換会(気仙漁青連)	50千円	50千円	50千円	50千円
支部情報交換会(上閉伊漁青連)	20千円	100千円		0千円
漁業青年のつどい(県漁青連)	100千円	250千円		
全国青年女性漁業者交流大会(県漁青連)	258千円			
計	4件 428千円	3件 400千円	1件 50千円	計2件 50千円

ウ 漁業士活動

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
宮城県漁業士との交流会(漁業士会大船渡)	27千円	80千円	35千円	126千円
漁業士会報等活動(県漁業士会)	270千円	295千円	340千円	370千円
計	2件 297千円	2件 375千円	2件 375千円	計 2件 496千円



工 地区活動実績発表大会等

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
地区活動発表大会(大船渡) 50千円	地区活動発表大会(大船渡) 50千円	地区活動発表大会(大船渡) 50千円	地区活動発表大会(大船渡) 50千円
地区活動発表大会(釜石) 50千円	地区活動発表大会(釜石) 50千円	地区活動発表大会(釜石) 50千円	地区活動発表大会(釜石) 50千円
地区活動発表大会(宮古) 60千円	地区活動発表大会(宮古) 60千円	地区活動発表大会(宮古) 60千円	地区活動発表大会(宮古) 60千円
地区活動発表大会(久慈) 100千円	地区活動発表大会(久慈) 100千円	地区活動発表大会(久慈) 100千円	地区活動発表大会(久慈) 100千円
計 4件 260千円	計 4件 260千円	計 4件 260千円	計 4件 260千円

② 漁業女性活動

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
小学生魚食普及(大船渡女性部) 50千円	小学生魚食普及(大船渡女性部) 100千円	東京、横浜魚食普及(広田、女性部) 350千円	東京、魚食普及(広田、女性部) 289千円
消防婦人部との交流(釜石湾女性部) 70千円	農山女性交流(釜石東部) 40千円	盛岡、前沢魚食普及(綾里、女性部) 50千円	横浜、奥州市魚食普及(大船渡・女性部) 303千円
わかめ基利用加工試験(田野畑浜女性部) 60千円	青少年魚食普及(大槌) 50千円	奥州市、地元魚食普及(大船渡・女性部) 350千円	地元魚食普及(広田湾・女性部) 156千円
縫織女性の会との交流会(戸頼家女性部) 100千円	缶詰製品開発試験(浜岩泉浦) 60千円	青少年魚食普及(大槌・女性部) 50千円	漁場環境保全啓発(釜石湾・白浜浦女性部) 60千円
全国青年女性漁業者交流会(県女性連) 256千円	全国青年女性漁業者交流会(県女性連) 250千円	田野畑女性部との交流会(船越・女性部) 50千円	水産加工品開発(釜石東部・女性部) 90千円
漁村女性活動懇談会(自主事業) 82千円		50周年記念講演(県漁協女性部連絡協) 100千円	産直市の開催(大槌・女性部) 200千円
計 6件 618千円	計 5件 500千円	計 6件 950千円	計 7件 1,298千円

(4) 異業種間交流事業

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
農林漁業者交流会(上閉伊漁青連) 200千円	林業者交流、釜石・大槌植樹(上閉伊漁青連) 100千円	農林漁業者交流会(大槌・青年部) なし	
青年加工研究会との交流会(釜石漁業士会) 50千円	商工関係者との交流(漁青連九戸) 50千円	農林漁業者交流会(唐丹・青年部) 50千円	
農業・林業指導士との交流会(宮古漁業士会) 20千円			
計 3件 270千円	計 2件 150千円	計 2件 100千円	計 0件 0千円

(5) 地区協議会

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
大船渡地区協議会 30千円	大船渡地区協議会 9千円	大船渡地区協議会 1千円	大船渡地区協議会 11千円
釜石地区協議会 7千円	釜石地区協議会 0円	釜石地区協議会 0千円	釜石地区協議会 0千円
宮古地区協議会 103千円	宮古地区協議会 33千円	宮古地区協議会 15千円	宮古地区協議会 40千円
久慈地区協議会 30千円	久慈地区協議会 32千円	久慈地区協議会 21千円	久慈地区協議会 41千円
計 4件 169千円	計 4件 73千円	計 4件 36千円	計 5件 242千円

\*その他特認事業(担い手研修) 150千円

## 7 財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書

### 第1章 総 則

(目 的)

第1条 この業務方法書は、財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）寄附行為第38条の規定に基づき、基金の業務の実施について基本的な事項を定め、もって業務の適正な運営を図るものとする。

(業 務)

第2条 基金は、業務の公共的重要性にかんがみ、県、市町村、漁業団体等との密接な連携のもとに、その業務を効果的に運営するものとする。

### 第2章 漁業担い手育成基金地区推進協議会活動

(目 的)

第3条 漁業担い手育成対策を推進するため、地方振興局水産部単位に設置する漁業担い手育成基金推進協議会（以下「地区協議会」という。）に対し、活動費を支出するものとする。

(活動内容)

第4条 地区協議会の活動内容は、基金事業の推進並びに地区の漁業担い手育成対策に関する内容とする。

(申請及び決定)

第5条 地区協議会長は、助成事業に係る事業実施主体からの助成金申請書を取りまとめ理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長に通知するものとする。

(助 成)

第6条 決定通知を受けた地区協議会長は、事業実施主体に通知するものとする。

(報 告)

第7条 地区協議会長は、事業終了後事業実施主体に対し、速やかに報告書を理事長に提出できるよう指導するものとする。

### 第3章 助成事業

#### 第1節 青少年漁業体験・交流事業

(目 的)

第8条 海づくり少年団等の活動、地域の児童生徒等を対象にした漁業体験学習・交流活動等並びに高等学校のクラブ活動等において漁業に関する学習活動等を実施する場合にその経費を助成し、地域漁業に対する理解を深めるとともに、将来を担う漁業後継者の育成・確保に資する。

(資 格)

第9条 助成を受けることができる者は次のとおりとする。

- (1) 海づくり少年団
- (2) 前号に類する青少年集団
- (3) 漁業体験学習等を実施する漁協、漁業青年組織、実行委員会等
- (4) 沿海地区に設置されている高等学校

(助成額)

第10条 助成の対象となる経費は、海づくり少年団等の活動経費、漁業体験学習・交流活動等経費並びに漁業に関するクラブ活動等経費とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第11条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助成)

第12条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報告)

第13条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

## 第2節 漁業技術・経営研修事業

### 一 国内研修

(目的)

第14条 先達漁家、企業体、市場、試験研究機関等において、漁業経営、漁業技術又は流通上の課題解決のための研修をする者に対し経費を助成し、地域漁業の中核者として資質の向上を図る。

(資格)

第15条 助成を受けることができる者は、次に掲げる要件を備えた者でなければならない。

- (1) 現に漁業に従事し、研修終了後も引き続き漁業に従事すると見込まれる概ね45歳未満の者。
- (2) 働きながら学び得る資質、体力及び協調性を有する心身ともに健全な者。
- (3) 研修者の引率をする漁協・市町村、県関係職員1名をも対象とする。

(研修期間)

第16条 研修期間は、10日間以内の滞在研修とする。

(助成額)

第17条 助成の対象となる経費は、申請者が個人負担する研修旅費及び教材費とし助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第18条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第19条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第20条 申請者は、研修終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

## — 2. 海外研修事業

(目 的)

第21条 漁業の国際化、高度化に対応して、研修を通じて国際的漁業を体得しようとする者に対し経費を助成し、国際的な視野の涵養と経営技術の向上を図る。

(事業内容)

第22条 全国漁業協同組合連合会が実施する「漁協系統海外研修」又は漁業及び漁家生活を内容とした自主的な海外研修とする。

(資 格)

第23条 助成を受けることができる者は、次に掲げる要件を備えた者でなければならない。

- (1) 研修終了後漁業又は漁業に関連する業務に従事すると見込まれる概ね45歳未満の者。
- (2) 働きながら学び得る資質、体力及び協調性を有する心身ともに健全な者。

(研修期間)

第24条 研修期間は、20日以内の滞在研修とする。

(助成額)

第25条 助成の対象となる経費は、申請者が個人負担する研修旅費及び教材費とし助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第26条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第27条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第28条 申請者は、研修終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

## 第3節 漁業青壮年・女性活動事業

### — 1. 漁業青壮年活動

(目 的)

第29条 漁業経営の改善等に向けた活動を実施する漁業青壮年グループ等に対し、その活動経費を助成し、

組織活動の充実を図る。

(資 格)

第30条 助成を受けることができる者は次のとおりとする。

- (1) 漁業青壮年グループ
- (2) 岩手県漁村青壮年研究グループ連絡協議会
- (3) 岩手県漁村青壮年研究グループ連絡協議会支部
- (4) 岩手県漁業士会
- (5) 岩手県漁業士会支部

(助成額)

第31条 助成の対象となる経費は、新技術定着化試験等の試験研究、漁業青壮年交流活動並びに地区活動実績発表大会等の活動経費とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第32条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第33条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第34条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

## — 2. 漁業女性活動

(目 的)

第35条 地域活性化等に向けた活動を実施する漁業女性グループ等に対し、その活動経費を助成し、活動意欲の高揚を図る。

(資 格)

第36条 助成を受けることができる者は次のとおりとする。

- (1) 漁業女性グループ
- (2) 岩手県漁協女性部連絡協議会
- (3) 岩手県漁協女性部連絡協議会支部
- (4) 漁協女性部

(助成額)

第37条 助成の対象となる経費は、地域特産品開発、魚食普及活動並びに漁業女性交流活動等の活動経費とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第38条 助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区

協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助成)

第39条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報告)

第40条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

#### 第4節 異業種間交流事業

(目的)

第41条 広域で行う漁業に従事する青壮年と他産業従事青壮年との交流活動に対し、その経費の一部を助成し、仲間づくり及び青壮年相互の理解を促進する。

(事業内容)

第42条 事業内容は、話し合い、各種スポーツ、レクリエーション、漁業体験、奉仕活動及びこれらに類するものとし、参加者相互の交流とふれあいに配慮するものとする。

(資格)

第43条 助成を受けることができる者は、交流会を主催する青壮年を中心とする実施組織（以下「実施組織」という。）とする。

(助成額)

第44条 助成の対象となる経費は、交流会開催経費等とし、助成基準等は別に定める。

(申請及び決定)

第45条 助成を受けようとする実施組織は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助成)

第46条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報告)

第47条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

#### 第4章 特認事業

(特認事業)

第48条 理事長は、予算の範囲内で担い手育成対策上特に実施する必要があると認められる事業（以下「特



認事業」という。)を実施することができるものとする。

(対 象)

第49条 助成を受けることができる者は、第9条、第30条及び第36条のいずれかの資格に該当する者並びに漁業団体とする。

(申請及び決定)

第50条 助成を受けようとする者は、特認事業を希望する場合、関係団体等と協議のうえ別に定める助成金申請書を地区協議会長を経由して理事長に提出するものとする。

2 理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

(助 成)

第51条 決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

(報 告)

第52条 申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

## 第5章 雑 則

(委 任)

第53条 この業務方法書の施行について必要な事項は、理事長が別に定める。

(附 則)

この業務方法書は、平成5年3月16日から施行する。

この業務方法書は、平成6年4月1日から施行する。

この業務方法書は、平成15年3月27日から施行する。

この業務方法書は、平成16年4月1日から施行する。

## 8 財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則

### 第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 財団法人岩手県漁業担い手育成基金の業務運営に関しては、財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書（以下「業務方法書」という。）第53条の規定により、次のとおり定める。

### 第2章 助成事業

#### 第1節 青少年漁業体験・交流事業

(助成額)

第2条 業務方法書第10条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第3条 業務方法書第11条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第11条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助 成)

第4条 業務方法書第12条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第5条 業務方法書第13条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

#### 第2節 漁業技術・経営研修事業

##### — 1. 国内研修

(助成額)

第6条 業務方法書第17条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第7条 業務方法書第18条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第18条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助 成)

第8条 業務方法書第19条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第9条 業務方法書第20条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

##### — 2. 海外研修事業

(助成額)

第10条 業務方法書第25条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第11条 業務方法書第26条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第26条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第12条 業務方法書第27条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報告)

第13条 業務方法書第28条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

### 第3節 漁業青壮年・女性活動事業

#### 一 1. 漁業青壮年活動

(助成額)

第14条 業務方法書第31条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第15条 業務方法書第32条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第32条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第16条 業務方法書第33条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報告)

第17条 業務方法書第34条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

#### 一 2. 漁業女性活動

(助成額)

第18条 業務方法書第37条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第19条 業務方法書第38条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第38条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第20条 業務方法書第39条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報告)

第21条 業務方法書第40条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

### 第4節 異業種間交流事業

(助成額)

第22条 業務方法書第44条に基づく助成基準等は、別表1のとおりとする。

(申請及び決定)

第23条 業務方法書第45条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第45条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助成)

第24条 業務方法書第46条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第25条 業務方法書第47条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

### 第3章 特認事業

(申請及び決定)

第26条 業務方法書第50条に基づく申請は、様式第1号により申請書提出期日は別表2のとおりとする。

2 業務方法書第50条に基づく決定通知は、様式第2号のとおりとする。

(助 成)

第27条 業務方法書第51条に基づく助成金請求書は、様式第3号のとおりとする。

(報 告)

第28条 業務方法書第52条に基づく報告は、様式第1号のとおりとする。

### 第4章 雑 則

第29条 この業務細則に定めがないもので、必要な事項が生じたときはその都度理事長が決定する。

(附 則)

この業務細則は、平成5年3月16日から施行する。

この業務細則は、平成15年3月27日から施行する。

この業務細則は、平成16年4月1日から施行する。

別表1（第2条、第6条、第10条、第14条、第18条、第22条関係）

## 助 成 基 準 等

事 業 名	助 成 額	摘 要
漁業担い手育成基金地区推進協議会活動	・ 1 地区 25万円以内	・ 予算の範囲以内
青少年漁業体験・交流事業	・ 漁業体験学習・交流活動等経費 1 少年団又は1 行事 5万円以内  ・ 漁業に関するクラブ活動等経費 1 高等学校 10万円以内	・ 予算の範囲以内
漁業技術・経営研修事業	・ 国内研修 1 チーム 50万円以内  ・ 海外研修 1 人 50万円以内	・ 予算の範囲以内 ・ 技術試験等の実施を前提とした研修計画を優先的に採択する。
漁業青壮年・女性活動事業	・ 1 課題又は1 行事 35万円以内	・ 予算の範囲以内 ・ 継続的な技術試験については単年度毎に試験結果等を評価したうえで継続を認める。 ・ 国庫補助事業等、基金以外の助成事業計画と類似している場合は助成対象としない。 ・ 競技等用具類に係る経費並びに懇親会に係る飲食費は助成対象としない。
異業種間交流事業	・ 1 行事 25万円以内	・ 予算の範囲以内 ・ 懇親会に係る飲食費は助成対象としない。
特認事業	・ 別に定める。	

別表2（第3条、第7条、第11条、第15条、第19条、第23条、第26条関係）

## 申請書提出期日

事業名	申請書提出期日
漁業担い手育成基金地区推進協議会活動	地区協議会開催の1箇月前
青少年漁業体験・交流事業	事業実施の1箇月前
漁業技術・経営研修事業	事業実施の1箇月前
漁業青壮年・女性活動事業	事業実施の1箇月前
異業種間交流事業	事業実施の1箇月前
特認事業	事業実施の1箇月前



## 年度（助成事業の名称）助成金申請書（実績報告書）

年 月 日

財団法人岩手県漁業担い手育成基金  
理事長 様

（申請者）  
団体名  
代表者氏名 印

（助成事業の名称）を実施したいので（実施したので）、関係書類を添えて下記のとおり申請（報告）します。

### 記

#### 1 申請額（報告時は不要、円単位）

#### 2 実施計画（実績報告）

目 的	
実施時期	
実施場所	
内 容	

#### 3 収支予算（決算）書

##### (1) 収入の部

区 分	予 算 額	決 算 額	備 考
漁業担い手育成基金助成金			
そ の 他			
計			

##### (2) 収入の部

区 分	予 算 額	決 算 額	備 考
報 償 費			
旅 費			
需 用 費			
使用料及び賃借料			
そ の 他			
計			

## 年度（助成事業の名称）助成金交付決定通知書

岩漁基第 号  
年 月 日

（申請者） 様

財団法人岩手県漁業担い手育成基金  
理事長

金 年 月 日付けで申請のあった 年度（助成事業の名称）については、  
円を交付します。

## 年度（助成事業の名称）助成金請求書

年 月 日

財団法人岩手県漁業担い手育成基金  
理事長 様

（申請者）  
団体名  
代表者氏名 印

年 月 日付け岩漁基第 号で交付決定のあった 年度  
（助成事業の名称）について、金 円を請求します。

記

助成金振込先

金融機関名			
口座種目	普通・当座	口座番号	No.
ふりがな			
口座名義			
住所			
電話番号			

